



令和7年度

一般社団法人北海道開発技術センター
調査研究等

（調査研究事業／情報収集・連携事業／広報・国際交流事業）

－最終報告－

2025

令和8年5月29日

令和7年度 北海道開発技術センター 自主事業一覧

1. 調査研究等

A.調査研究事業

- 1) 雪氷障害に備えた安全な社会基盤に関する研究
- 2) 地域コミュニティを通じた地域振興及び観光まちづくりに関する調査研究
- 3) モビリティ・マネジメントや新技術を活用した公共交通の維持・発展に関する調査研究
- 4) 北海道の自然・文化・歴史等を活用したツーリズムに関する調査研究
- 5) ほっかいどう学の推進に関する調査研究
- 6) 野生生物との共生に関する調査研究
- 7) 北海道の地域防災に関する調査研究
- 8) 将来の北海道開発に関する調査研究
- 9) 吹雪対策施設(吹き払い柵)の設置環境による吹き払い機能の解明と防雪能力の定量評価

B.情報収集・連携事業

- 1) 寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理
- 2) 技術資料等のデータベース化
- 3) 「寒地開発技術委員会」の開催と運営
- 4) インターンシップ制度
- 5) 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業

2. 広報・国際交流事業

A.広報・出版刊行等

- 1) ニュースレターの発行
- 2) ホームページの更新
- 3) 出版刊行

B.シンポジウム・セミナー

- 1) 寒地技術シンポジウム
- 2) 「野生生物と交通」研究発表会
- 3) 地域政策研究セミナー等
- 4) SBW20周年記念事業
(シーニックバイウェイ北海道20周年記念フォーラム)

C.国際交流

- 1) 米国シーニックバイウェイ関係機関との交流
- 2) PIARC(世界道路協会)
- 3) 日中冬期道路交通ワークショップ
- 4) ATTA(アドベンチャートラベル・トレード協会)との交流
- 5) ISCORD(寒地開発に関する国際シンポジウム)

1. 調査研究等

A. 調査研究事業

1) 雪氷障害に備えた安全な社会基盤に関する研究

気候変動等の影響により極端化する積雪寒冷地特有の雪氷障害についての調査を行い、画像処理やAI、ビッグデータの分析や解析を用いて、地域や社会基盤を守るための研究、提案を行う。

研究NO.	研究項目	期間	研究内容	報告有無
①	暴風雪および吹雪対策施設の未解決課題に関する調査及び研究	3年目	極端化する暴風雪や未解決課題の多い吹き払い柵についての調査、分析を行い、結果をレビューする。	○
②	気象データ未観測地点の寒さ推定に関する研究	3年目	標高データによる最低気温関連指標の推定手法の検討のほか、他機関と連携して現地調査を行う。	○
③	カメラ画像の画像処理による視認性把握	3年目	・車載カメラ画像の提供会社と連携し、視認性情報の活用、展開を検討する。 ・簡易型webカメラを用いた冬期道路維持管理の高度化の可能性を検討する。 ・CCTVカメラ画像を用いた視認性情報提供システムを用いた道路管理者以外への情報提供を試行する。 ・車載カメラ画像を用いた視認性情報を提供するためのパッケージを検討する。	○
④	雪氷路面の生成過程と転倒事故の実態把握	3年目	・2024年度、2025年度と、転倒による救急搬送者がかつてない人数となっており、人的要因と気象要因の双方について分析を行う。 ・転倒時の状況を把握する「冬道転倒体験アンケート」の票数が400票を上回っており、属性や当日の状況などを分析し、急増する転倒者の対策を講じる。	○

1) 雪氷障害に備えた安全な社会基盤に関する研究

① 暴風雪および吹雪対策施設の未解決課題に関する調査及び研究

極端化する暴風雪や未解決課題の多い吹き払い柵についての調査、分析を行い、結果をレビューした。

全道で最も多く設置されている吹き払い柵の吹き払い能力については、設置環境による影響を受けやすい。2025年度冬期は、堆雪状況による吹き払い能力を確認するために、Webカメラによる現地観測を行った。また、吹き払い柵風上側の地形条件や、防雪板の枚数による影響などを確認するため、現地踏査を行った。さらに、2018年度から継続的に行っている防雪林区間の視程障害発生状況の観測を2025年度も実施した。

■ 吹き払い柵整備区間におけるWebカメラ観測

日 程: 2026年1月～2026年3月

場 所: 一般国道40号 KP208

内 容: Webカメラを用いた吹き払い柵整備区間の画像撮影

■ 吹き払い柵整備区間の現地踏査

日 程: 2025年6月18日ほか

場 所: 一般国道232号ほか

内 容: 現地条件が特殊な吹き払い柵区間において、堆雪状況などを確認

■ 防雪林整備区間における簡易型カメラ観測

日 程: 2025年12月～2026年3月

場 所: 一般国道241号 KP65.1付近

内 容: 簡易型カメラを用いた防雪林整備区間の画像撮影



図1. Webカメラによる吹き払い柵区間の観測



図2. 吹き払い柵風上側が高くなっている例

1) 雪氷障害に備えた安全な社会基盤に関する研究

②気象データ未観測地点の寒さ推定に関する研究

標高データによる最低気温関連指標の推定手法の検討のほか、他機関と連携して現地調査を行った。

■北海道内における寒さの特性の違い

北海道の脊梁山脈を境に東西で異なる寒冷メカニズムに着目し、気温低下の要因を「降雪量・雪質・上空寒気・地形特性」から比較分析した。

表1. 脊梁山脈東西による気温低下

項目	西エリア(幌加内)	東エリア(陸別)
降雪頻度	高い	低い
雪質	乾いた低密度雪	湿った高密度雪
上空寒気	流入が早く長い	流入が遅く短い
地形	閉塞的な盆地	開放的な谷地形

■まとめ

- ・降雪頻度が高く乾雪が多いため、熱伝導率の小さい雪面が形成される
- ・上空寒気の流入が早く、その影響時間が長い
- ・閉塞的な盆地地形により冷気が滞留しやすい

これらの要因が重なり、西エリア特有の極端な冷え込み(-30℃以下)が発生していると考えられる。

<研究発表>

上記研究成果について、寒地技術シンポジウム(2025年11月19日・20日)において発表した。

[タイトル] 北海道の脊梁山脈を挟んだ東西エリアの降雪・地形的特徴による最低気温の傾向

[著 者] 鈴木 颯真・白川 龍生(北見工業大学)、
大橋 一仁・金田 安弘((一社)北海道開発技術センター)、
小林 利章((株)北海道気象技術センター)

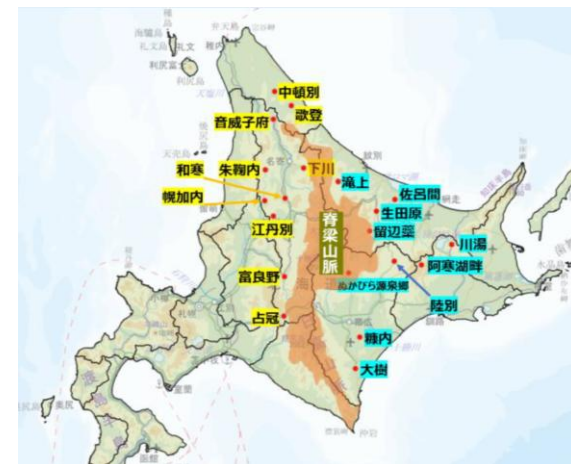


図1. 寒さ指標上位の位置関係

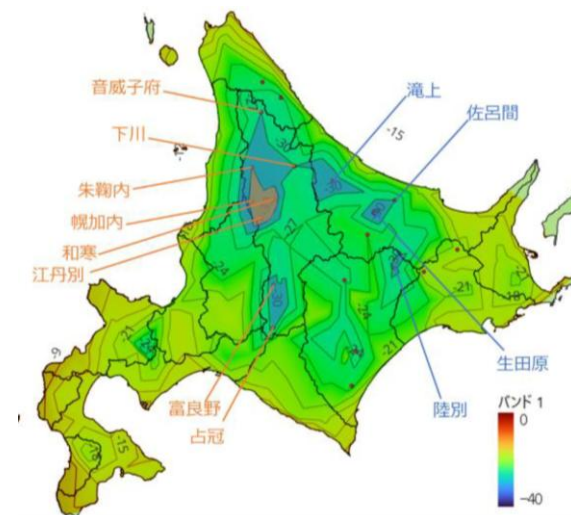


図2. 2020年2月9日の地上最低気温

1) 雪氷障害に備えた安全な社会基盤に関する研究

③カメラ画像の画像処理による視認性把握

簡易型webカメラを用いた冬期道路維持管理の高度化の可能性について検討を行った。また、CCTVカメラ画像を用いた視認性情報提供システムを活用し、道路管理者以外への情報提供を試行した。さらに、車載カメラ画像を用いた視認性情報提供のパッケージ化についても検討を行った。

■Webカメラを用いた冬期道路維持管理の高度化の可能性検討

道北地域を対象として、(一財)北海道道路管理技術センターと連携し、冬期道路維持管理におけるWebカメラの活用可能性を検討した。

(一社)北海道開発技術センターでは、Webカメラの閲覧サイトを構築し、その効果や評価について維持業者へのヒアリングを行った。

■視認性情報提供システムを用いた道路管理者以外への情報提供の試行

北海道大学と連携し、バス事業者などへの情報提供を試行した。

■車載カメラ画像を用いた視認性情報提供のためのパッケージ化検討

過年度作成したパッケージにおいてエラーが発生する事象があったことから、ハード、ソフト両面でブラッシュアップを行い、本格導入に向けたパッケージ化を進めた。

■車載カメラ画像とCCTVカメラ画像の両方を用いた視認性情報についての分析

固定点で一定時間間隔で視界情報を収集するCCTVカメラ画像と、一定時間間隔ではないものの線的に視界情報を収集する車載カメラ画像の双方の特性を融合することにより、一定時間間隔で線的に視界情報を推定するモデルを構築した。

<研究発表> Transportation Research Board(2026年1月)

[タイトル]Predicting Visibility Conditions at the CCTV installation site using Long Short-Term Memory

[著 者]M. Yagi, S. Takahashi, K. Ohashi, Y. Nagata and T. Hagiwara



図1. Webカメラの設置例

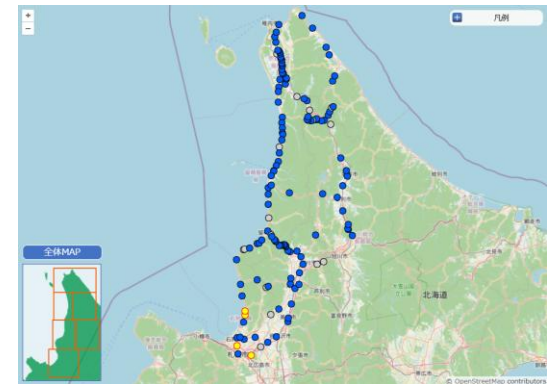


図2. 試行した情報提供画面の例

1) 雪氷障害に備えた安全な社会基盤に関する研究

④雪氷路面の生成過程と転倒事故の実態把握

2024年度、2025年度において、転倒による救急搬送者が過去に例のない水準となっていることから、人的要因と気象要因の双方について分析を行った。また、冬道で転倒した方を対象にアンケートを実施し、転倒者の特徴を把握するとともに、ケガをした方、救急搬送された方の割合等进行分析した。

札幌市消防局より提供いただいた2024年度冬期の転倒による救急搬送データと、(一社)北海道開発技術センターが2024年冬期に自主的に実施した冬道での転倒体験についてのwebアンケート調査結果を整理、分析し、冬道での転倒による障害の実態を把握した。また、2025年度冬期も「冬道転倒体験アンケート」を実施し、204件の転倒事例を収集した。

■冬道での転倒による救急搬送データの整理・分析

2024年度冬期は、2冬期連続で過去最大の救急搬送者を更新したことから、その要因を分析し、雪氷学会北海道支部や雪氷研究大会において発表した。

[タイトル]2024年冬期の冬道での転倒事故について

ー札幌市における自己転倒による救急搬送者数の動向ー

[著 者]三原 夕佳・永田 泰浩・富田 真未・金田 安弘((一社)北海道開発技術センター)

[タイトル]歩道の超つるつる路面形成時の気象の特徴

ー冬道転倒による救急搬送多発日の上位5事例についての分析ー

[著 者]金田 安弘・富田 真未・三原 夕佳・永田 泰浩((一社)北海道開発技術センター)

■転倒体験についてのアンケート調査結果の分析

転倒体験についてのwebアンケート調査結果を、日本雪氷学会北海道支部、寒地技術シンポジウム、ゆきみらい2026in大館において発表した。

[タイトル]冬道での転倒者を対象としたアンケート調査

ー2024年度冬期調査報告ー

[著 者]富田 真未・金田 安弘・永田 泰浩 ((一社)北海道開発技術センター)

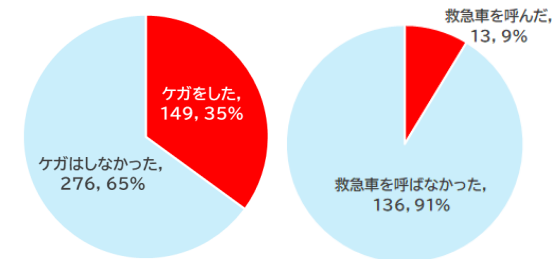


図1. 転倒してケガをした人の割合(左)とケガをして救急車を呼んだ人の割合(右)



図2.冬道転倒体験アンケートの誘導バナー

2) 地域コミュニティを通じた地域振興及び観光まちづくりに関する調査研究

地域協働による各種調査・取組を通じて、地域資源の付加価値化や新たな地域コミュニティの創出及び産学官連携推進を目的として、観光・地域づくりに関する調査研究を行う。具体的には、道路沿道の景観保全や環境保全及びその活用に関する調査研究を地域活動団体の支援も含めて実施する。

研究NO.	研究項目	期間	研究内容	報告有無
①	多様な主体との連携によるシーニックバイウェイの推進に向けた調査検討	3年目	・シーニックバイウェイ北海道の地域活動団体フォローアップ調査を行う。 ・大学等との共同研究を行いシーニックバイウェイの推進に向けた検討を行う。	○
②	ビューポイントパーク等での周辺情報の提供方法に関する調査研究	2年目	インタープリテーションやインタープリテンションボードの計画や設置手法に関する研究を行う。	○
③	ヒストリックバイウェイに関する調査研究	1年目	松浦武四郎、永山在兼、イザベラバード等の北海道開拓に関わる人や日本遺産、北海道遺産等をテーマとして、シーニックバイウェイ北海道の各ルートの新たな連携軸として、また観光振興の新たな資源としての活用について調査検討を行う。	○

2) 地域コミュニティを通じた地域振興及び観光まちづくりに関する調査研究

①多様な主体との連携によるシーニックバイウェイの推進に向けた調査検討

シーニックバイウェイ北海道の地域活動団体フォローアップ調査を行った。また、大学等との共同研究を行い、シーニックバイウェイの推進に向けた検討を実施した。

■大学等との共同研究によるシーニックバイウェイの推進に向けた検討

地域活動団体と道路管理者の協働により、魅力ある道路景観の創出を推進する「秀逸な道」区間に整備されている「ビューポイントパーキング」について、北海道科学大学と連携し、ビューポイントパーキングの検討・現地確認及びファニチャー製作等に関する意見交換を行った。

<開催概要>

①建築学科による「相川ビューポイントパーキング」の現地確認

〔日 程〕 2025年6月25日

〔参加者〕 15名(北海道科学大学、喜茂別町、地域活動団体、北海道開発局、
(一社)北海道開発技術センター)

〔内 容〕 現地調査(喜茂別町「相川ビューポイントパーキング」)
北海道科学大学(工学部建築学科)からのプレゼン等

②未来デザイン学科による地域活動団体へのヒアリング調査

〔日 程〕 2026年2月14日/2026年2月21日

〔内 容〕 地域のキーパーソンに対するインタビュー動画の撮影・編集

③学官地域連携によるビューポイントパーキングの魅力アップに向けた意見交換会

〔日 程〕 2026年3月11日

〔参加者〕 28名(北海道科学大学、喜茂別町、地域活動団体、北海道開発局、
(一社)北海道開発技術センター)

〔内 容〕 模型やコミュニケーションボード等を用いた地域関係者等との意見交換、
学生からのプレゼンテーション(未来デザイン学科/建築学科)



図1:ビューポイントパーキング現地確認の様子



図2:ヒアリング調査の様子



図3:意見交換会の様子

2) 地域コミュニティを通じた地域振興及び観光まちづくりに関する調査研究

②ビューポイントパーク等での周辺情報の提供方法に関する調査研究

インタープリテーションやインタープリテンションボードの計画や設置手法に関する研究として、既存研究やガイドライン、指針等に関する文献調査を中心に実施した。

文献調査は主に以下を対象とした。

■日本のガイドラインや技術指針

①国土交通省「観光活性化標識ガイドライン」(2005年6月)

徒歩・公共交通の観光客が現地が必要とする情報を提供するガイドラインであり、自治体の観光サイン整備に活用されるケースが多い。主に「案内標識」を中心とした内容であるため、解説標識に関する記載は見られない。

②環境庁「自然公園等施設技術指針」(2013年7月制定、2022年3月改定)

国立公園等の公共標識に関する指針であり、第3部 第7章「公共標識(サイン類)」の中に「解説標識」に関する記載はあるものの、細部まで踏み込んだ内容とはなっていない。

③文化庁「文化財の多言語解説案内板の制作指針」(2020年3月)

文化財に関する解説標識の指針であり、ロゴマークを含め詳細な規定が定められている。

■海外のガイドラインや技術指針

・National Park Service(USA)「Wayside Exhibits」(2009年10月)

解説標識の基準と作業プロセスの概要を示したものであり、来訪者の利用データに基づいた優れた事例を重視している。したがって、本ガイドは完全な手引き書ではなく、グラフィックデザイン、解説文の作成、調査研究など、各分野の専門的な知識や技能を補完するための資料として位置づけられる。

我が国の解説標識は「案内＋情報提供」的な傾向が強い一方、米国では地域特性を大事にしながら「解説＝体験価値」を重視する傾向が見られた。

次年度以降は、「Wayside Exhibits」や文化庁の指針等を踏まえ、シーニックバイウェイ北海道における「解説標識」ガイドライン(案)の検討を行う予定である。



図1: 米国国立公園局(NPS)
「Wayside Exhibits」

2) 地域コミュニティを通じた地域振興及び観光まちづくりに関する調査研究

③ヒストリックバイウェイに関する調査研究

松浦武四郎、永山在兼、イザベラバード等の北海道開拓に関わる人物や日本遺産・北海道遺産等をテーマとして、シーニックバイウェイ北海道の各ルートにおける新たな連携軸とし、観光振興に資する新たな資源としての活用について調査検討を行った。

北海道遺産である天塩川および松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡を有する天塩川シーニックバイウェイにおいて、北海道遺産との連携のもと、歴史文化の伝承をテーマとした各種事業を実施した。

■武四郎セミナーの開催

＜開催概要＞ 地域住民の歴史・文化への理解促進を図るとともに、次世代への伝承と学びの機会の創出を目的に、三重県松阪市の松浦武四郎記念館の山本館長を招き、講演会を開催した。

〔名称〕天塩川×武四郎セミナー「北海道の名づけ親・松浦武四郎の生涯と天塩川」

〔日時〕2025年10月23日 〔場所〕名寄グランドホテル藤花 〔参加〕100名

■史跡デジタルスタンプラリーの実施

＜開催概要＞ 松浦武四郎著『天塩日誌』を基に、ゆかりの地を巡るデジタルスタンプラリーを実施した。スマートフォンのGPS機能を活用し、楽しく学べる体験型とした。

〔期間〕2025年10月1日～11月30日

〔特典〕特産品の詰め合わせ、オリジナル武四郎ピンバッチ ほか

■「武四郎まつり」でのPR・ブース出展

三重県松阪市で開催されたイベント「武四郎まつり」において、天塩川シーニックバイウェイ、北海道遺産およびシーニックバイウェイ北海道のPRブースを出展し、活動PR等を実施した。

〔日時〕2026年2月22日 〔場所〕三重県松阪市武四郎記念館 ほか

*上記の事業はいずれも以下の体制で実施した。

〔主催〕天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議

〔共催〕(一社)北海道開発技術センター、(一社)シーニックバイウェイ支援センター

〔後援〕道北観光連盟、NPO法人北海道遺産協議会、北海道開発局 旭川開発建設部



写真1.セミナーの様子



図1.デジタルスタンプラリー
広報用のチラシ

3) モビリティ・マネジメントや新技術を活用した公共交通の維持・発展に関する調査研究

今後の公共交通の維持・発展を目的とし、モビリティ・マネジメントやMaaS、CASE時代に対応した道路整備、交通結節点(バスタ)等のあり方について、調査・研究を実施する。なお、各種研究成果については、「土木学会」、「日本モビリティ・マネジメント会議」、「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」や「日本地域学会」等で報告する。

研究NO.	研究項目	期間	研究内容	報告有無
①	モビリティ・マネジメントに関する調査研究	3年目	業務・自主研究で得た成果の発表と他地域事例の獲得。公共交通利用促進や自動車からの行動変容施策について新規事業提案や論文を執筆する。	○
②	公共交通確保・維持及びMaaS等に関する調査研究	3年目	業務・自主研究で得た成果の発表と他地域事例の獲得。効果的・効率的な路線NWやドライバー確保等の施策について新規事業提案や論文を執筆する。	○

3) モビリティ・マネジメントや新技術を活用した公共交通の維持・発展に関する調査研究

①モビリティ・マネジメントに関する調査研究

業務・自主研究で得た成果の発表と他地域事例の獲得を行った。また、公共交通利用促進や自動車からの行動変容施策について新規事業提案や論文を執筆した。

■第20回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)での報告

北海道札幌市で開催された第20回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)(2025年9月12日・13日)において、ポスター発表を行った。

<研究発表>

[タイトル] 絵本でつなぐこども園モビリティ・マネジメント

[著 者] 金 貞姫((一社)北海道開発技術センター)、
松本 美音・増山 由香里・中村 心音・吉川 真生・
三浦 依久(札幌国際大学人文学部心理学科)

[概 要] 札幌市内の保育施設を中心に、移動手段や車利用、駐車場の整備状況に関する調査を実施するとともに、のりもの絵本活動を通じて、幼児による公共交通を活用したお出かけ(社会体験)活動を実践。



図1:ポスター(学校教育MM)

■第14回くらしの足をみんなで考える全国フォーラムでの報告

神奈川県横浜市で開催された第14回くらしの足をみんなで考える全国フォーラム(2025年10月18日・19日)において、ポスター発表を行った。

<研究発表>

[タイトル] 地域交通お仕事図鑑の企画紹介

[著 者] 竹口 祐二・新森 紀子((一社)北海道開発技術センター)、
斉藤 優太・中野 滉(日本データサービス(株))、
爲廣 正彦・岡田 理恵((一社)交通環境まちづくりセンター)

[概 要] 地域交通業界の多様な職種を紹介し、業界全体の仕事への興味関心を引き出すことで運転手不足をはじめとした人材不足の課題解決への一助を目指したものであり、職種の概要、求められる資質能力、オススメ職種診断などを掲載している。



図2:ポスター(地域交通お仕事図鑑)

3) モビリティ・マネジメントや新技術を活用した公共交通の維持・発展に関する調査研究

②公共交通確保・維持及びMaaS等に関する調査研究

2025年11月22日～24日に開催された第72回土木計画学研究発表会・秋大会(企画提案型)に参加した。スペシャルセッションへの登壇2件と論文発表1件を行うとともに、他セッション・論文発表を聴講し、地域交通をはじめとする計画関連の取組情報の収集・関係者との交流を図った。

■第72回土木計画学研究会・秋大会(企画提案型)での報告

<開催概要>

[日 時] 2025年11月22日～24日

[場 所] 福井工業大学福井キャンパス／フェニックスプラザ

<特別セッション登壇>

①スペシャルセッション登壇: 竹口 祐二((一社)北海道開発技術センター)

[日 時] 2025年11月22日

[タイトル] 社会課題解決のためのゲーミフィケーションの可能性

②スペシャルセッション登壇: 竹口 祐二((一社)北海道開発技術センター)

[日 時] 2025年11月23日

[タイトル] スマートモビリティプラットフォームの構築の最前線2.0

<研究発表>

[日 時] 2025年11月24日

[タイトル] モビリティ・コミュニティ開発会議(MCDC)のプログラム構築と試行

[著 者] 竹口 祐二・大井 元揮((一社)北海道開発技術センター)、

吉川 令・土崎 伸((株)オリエンタルコンサルタンツ)、

諸星 賢治・谷口 綾子(筑波大学大学院)、

東 徹((一社)システム科学研究所)

神田 佑亮(呉工業高等専門学校)



写真1:MCDCの様子／チームディスカッション
(論文発表のテーマであるカンファレンス)



写真2:MCDCの様子／懇親会後の集合写真
(論文発表のテーマであるカンファレンス)

4) 北海道の自然・文化・歴史等を活用したツーリズムに関する調査研究

世界水準の観光地形成を目指して、北海道の自然・文化・歴史等を活用したツーリズムに関する調査研究を行う。具体的には、これまで調査研究を続けてきた、「北海道エコ・モビリティ」「都市型サイクリング」「アドベンチャートラベル」を踏襲し、北海道の自然・文化・歴史等を活用したツーリズムを担う人材の育成、受入環境の整備、ツーリズム商品の造成などについて調査・検討を行う。

研究 NO.	研究項目	期間	研究内容	報告 有無
①	北海道エコ・モビリティに関する調査研究	3年目	エコモビリティの推進に関する調査研究 各実証フィールドの自立支援とエコモビリティの発展に向けた研究	○
②	都市型サイクルツーリズムに関する調査研究	3年目	札幌サイクルラボと連携した都市型サイクルツーリズムのメニュー開発と、北海道「散走」ミーティングの開催を行う。	○
③	アドベンチャー・トラベルに関する調査研究	3年目	ATの定着にむけて、札幌圏でのメニューの整理と新メニューの検討。また、ATTAのwebを活用した広報を実施。	○
④	自転車政策や制度に関する調査研究	2年目	北見工業大学(高橋清教授)との共同研究として実施。当年度は、インバウンドのサイクルツーリズムに関するwebアンケートを実施する。	○

4) 北海道の自然・文化・歴史等を活用したツーリズムに関する調査研究

① 北海道エコ・モビリティに関する調査研究

北海道のAT(アドベンチャー・トラベル)やエコモビリティの推進に関する調査研究として、各実証フィールドの自立支援とエコモビリティの発展に向け、TONGARI ROAD RIDE等のAT・エコモビリティイベントの共同開催支援や、道北・道東等の実証フィールドにおける実践的調査・検証活動を実施した。

■ Salmon Ride 2025の開催支援

空知をフィールドとして、札幌から旭川間を走行するサイクルツアーの開催を支援した。ツアーはTEPPEN-RIDEに接続し、両ツアーに参加することで、札幌から最北の宗谷岬を目指すことが出来る。

[実施日] 2025年9月18日・19日

[コース] Day1・18日／札幌市赤レンガテラス～当別町～新篠津村～
滝川市ホテル三浦華園

Day2・19日／滝川市～赤平市～深川市～JR旭川駅

■ TEPPEN-RIDE2025の開催支援

実証フィールドのひとつでもある「きた北海道ルート」が主催するサイクルイベントを支援した。2日目は悪天候のため、自転車での走行は中止となり、自動車での移動となった。

[実施日] 2025年9月20日～22日

[コース] Day1・20日／JR旭川駅～和寒町～名寄市

Day2・21日／名寄市～音威子府村～中川町

Day3・22日／中川町～豊富町～稚内市「宗谷岬」

■ 知床半島一周サイクリング2025の開催支援

道東をフィールドに、過年度より実施されている知床半島一周サイクリングについて、コース設定等を調査・検討するために実施するモニターツアーの開催を支援した。

[実施日] 2025年10月2日～4日

[コース] Day1・2日／道の駅しやり～JR知床斜里駅～(JR)～JR摩周駅～中標津町

Day2・3日／中標津町～根室市～羅臼町

Day3・4日／羅臼町～斜里町～道の駅しやり



写真1. Salmon Ride 2025の様子



写真2. TEPPEN-RIDE2025の様子



写真3. 知床半島一周サイクリング2025の様子

4) 北海道の自然・文化・歴史等を活用したツーリズムに関する調査研究

②都市型サイクルツーリズムに関する調査研究

都市型サイクルツーリズムのメニュー開発の一環として、(株)シマノ主催の「第8回ソーシャル×散走企画コンテスト」に協力し、北海道からの応募者による第4回北海道「散走」ミーティングを開催した。

■第4回「北海道散走ミーティング」の開催

(株)シマノ主催の「第8回ソーシャル×散走企画コンテスト」が開催され、2025年は全国から24チーム115名の大学生が参加した。北海道からも3チームが応募し、そのうち2チームがファイナリスト(全6チーム)に選出され、北海道科学大学チームが大賞に準じる「ソーシャル賞」を受賞した。

こうした学生のアイデアを、国や自治体、企業、道の駅、シーニックバイウェイ北海道の関係者と連携し、地域実装へつなげることを目的として、2026年2月20日に「第4回北海道散走ミーティング」を開催した。

<開催概要>

[主 催] (一社)北海道開発技術センター、(一社)シーニックバイウェイ支援センター

[参加者] 現地35名、オンライン30名 (国、市町村、道の駅、シーニックバイウェイ関係者等)

[プログラム]

- 1) 開会挨拶 (一社)北海道開発技術センター 理事長 橋本 幸
- 2) 第8回「ソーシャル×散走」企画コンテストの概要報告
「ソーシャル×散走」企画コンテスト事務局 室谷 恵美氏
シマノ自転車博物館 神保 正彦氏
- 3) 応募企画の発表
 - ①ポロクル大学生チーム 「矢羽根の果てまで道(どう)でしょう」
 - ②藤女子大学 「石狩文明 in 2025」
 - ③北海道科学大学 「散走×方程式」
- 4) 意見交換

※散走とは…

日常の中の小さな気づきや出会いを見つけに、散歩のようにゆったりと、気の向くままに自転車を走らせる楽しみ方。



図1.ポロクル大学生チーム
発表スライド



図2.藤女子大学 人間生活学部
発表スライド



図3.北海道科学大学 未来デザイン学部
発表スライド

4) 北海道の自然・文化・歴史等を活用したツーリズムに関する調査研究

③アドベンチャー・トラベルに関する調査研究

AT(アドベンチャー・トラベル)の定着にむけて、札幌圏でのメニューの整理と新メニューの検討を実施した。
また、ATTA(アドベンチャートラベル・トレード協会)のwebを活用した広報を実施した。

過年度までの実施内容を整理し、札幌圏での体験プログラムとしてwebサイトにて紹介した。また、新たなプログラムの検討・実施を行った。

■過年度までの実施内容の整理、サイトでの紹介

過年度に実施した札幌近郊で楽しめるATプログラムについて、実施後の意見等を基に内容の見直しを行うとともに、写真を活用し、webサイトにて日本語版・英語版で紹介した。

[サイト] Sapporo Adventure Life (<https://www.sapporo-adventure.jp/index.html>)

■新たなAT体験プログラムの試行

新たなプログラムとして、空知シーニックバイウェイと連携し、札幌市から旭川市までのサイクリングコースの検討を行った。海外からの観光客にも参加いただき、コース、サポート内容、休憩箇所や食事などの検証として、モニターツアーを実施した。

[行程] 2025年9月18日・19日

・18日:札幌～新篠津(昼)～滝川(泊) <総距離:107km>

・19日:滝川～深川(昼)～旭川 <総距離:96km>

[参加者] 2名(日本)、4名(シンガポール)、1名(香港)

+サイクルガイド 2名、サポートカー・記録 2名 ほか

[ポイント] ・『Nature/Culture/Activity』を組み合わせた内容

(サイクリング×足湯、ローカルフード、北海道神宮、地元の名所)

・特産品の紹介やヴィーガンに対応した食の提供

・シーニックカフェや情報拠点への立ち寄りと紹介

・地域との交流 など

[主催] (一社)シーニックバイウェイ支援センター

[共催] 空知シーニックバイウェイ、(一社)北海道開発技術センター

[後援] 石狩川流域圏会議



図1. webサイトでの冬期プログラム紹介



写真1. サポートの様子

4) 北海道の自然・文化・歴史等を活用したツーリズムに関する調査研究

④自転車政策や制度に関する調査研究

北見工業大学(高橋清教授)との共同研究として実施し、当年度は、インバウンドのサイクルツーリズムに関するwebアンケートを実施した。

＜調査概要＞

[調査目的]

インバウンドによる日本国内や北海道におけるサイクリングニーズや課題等を把握し、北海道における今後のサイクルツーリズムのさらなる推進に向けた新たな知見を得るとともに、調査を通じた北海道のサイクリング情報の展開により、諸外国へのプロモーションを併せて実施した。

[調査対象]

4ヶ国：フランス、アメリカ、オーストラリア、台湾
※フランス・アメリカ・オーストラリアは、日本国内での滞在日数や消費金額が大きいことから選定
台湾は、アジアにおけるサイクリング大国であることから選定

[調査対象／サンプル数]

- 下記①、②の合計200サンプル
- ①自転車愛好家(自転車で走ること自体を楽しむ目的の自転車利用者)
100サンプル(各国25サンプルずつ)
 - ②観光客(一つの移動手段として自転車を利用する観光客)
100サンプル(各国25サンプルずつ)

[調査方法]

webアンケート調査
(webアンケート事業者が保有する海外モニターを対象)
設問数：15問程度を想定

[調査期間]

2026年3月

調査結果の集計・分析等は、次年度に実施する。

調査項目	・個人属性	年齢、性別、年収、職業、居住地、 普段のサイクリング頻度や距離、自転車の目的(走ること自体か、いち移動手段か)
	・過去の訪日経験 ・サイクリング経験	過去の訪日経験／日本でのサイクリング経験、実際にサイクリングしたエリア(北海道等)
	・国内におけるサイクリング実態	【過去に国内でサイクリングしたことがある人】 サイクリングの形態(長距離サイクリング、都市型観光等)、次に日本国内でサイクリングしてみたい地域
	・サイクリングニーズや課題	日本や北海道でのサイクリングニーズ、実際に日本(北海道)でサイクリングしようと思った場合に重要視する環境要件や、発信情報に対するニーズ 実際に日本へ渡航しようと思った際の障壁(課題)

5) ほっかいどう学の推進に関する調査研究

NPO法人ほっかいどう学推進フォーラムと連携し、北海道総合開発計画における「ほっかいどう学」の推進や、学校教育を通じた社会的ジレンマ問題の解消を図る。また、北海道の土木史や道路史に係る調査研究を実施する。なお、各種研究成果については、(公社)土木学会主催の「土木と学校教育フォーラム」や、「土木史研究発表会」に参加・発表するとともに、併せて情報交換・事例収集等を実施する。

研究NO.	研究項目	期間	研究内容	報告有無
①	「ほっかいどう学」の推進に関する調査研究	3年目	業務・自主研究で得た成果の発表と他地域事例の獲得。	○
②	北海道の土木史や道路史に関する調査研究	3年目	土木史研究の継続実施と研究成果の発表 (北海道大学高野教授他との共同研究)	○
③	北海道の冬の遊びや公園利用やライフスタイル形成に関する調査研究	1年目	2024年の追加調査、地域型施設のヒアリング調査や認定こども園の実態調査	○

5) ほっかいどう学の推進に関する調査研究

①ほっかいどう学の推進に関する調査研究

全道みち学習交流会の開催による情報共有や意見交換、業務・自主研究で得た成果の発表と他地域事例の獲得を行った。

■第3回全道みち学習交流会・ほっかいどう学シンポジウム

[日時] 2025年8月5日 9:30～11:30

[場所] 札幌国際ビル8階 国際ホール

[主催] (一社)北海道開発技術センター・NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム

[概要] 全道各地のみち学習検討会から教員、行政担当者ら63名が参加し、各地域の「みち学習」の取り組みを共有・検討した。交流会では、地域ごとの特色を活かした実践例やNPOを中心に作成中のデジタル副読本が紹介され、活発な意見交換が行われた。交流会の前日にはNPOほっかいどう学推進フォーラム主催、(一社)北海道開発技術センター協力による第7回ほっかいどう学シンポジウム・ポスターセッションが開催された。

<実践報告>

[胆振日高] 国語 「メモリーズバイウェイ」と「防災とみち」（登別市立幌別西小）

[留 萌] 国語 俳句に親しもう 短歌の世界（小平町立鬼鹿小）

[石狩空知] 道徳 公園のような道～魅力的な大地北海道（札幌市立栄北小）

<話題提供>

NPOほっかいどう学による北海道版デジタル副読本の開発状況を報告。

（札幌国際大学・朝倉 一民氏）

■第17回土木と学校教育フォーラム(2025年8月3日・東京)

<研究発表・情報収集>

・開発・教育行政との連携を活かした「ほっかいどう学」の地域展開を紹介。

・十勝及び渡島・桧山みち学習検討会における授業実践について発表。

（パネリスト：幕別町立札内南小学校・竹山 大輔氏 他）

・NPOほっかいどう学による北海道版デジタル副読本の開発状況を報告。

（札幌国際大学・朝倉 一民氏他）



写真1.みち学習交流会の様子



写真2.シンポジウム・ポスター発表の様子



写真3.土木と学校教育フォーラムの様子

5) ほっかいどう学の推進に関する調査研究

②北海道の土木史や道路史に関する調査研究

「北海道みちの歴史研究会」(会長:北海道大学 高野伸栄教授)の運営支援を事務局として担当した。
また、各種研究成果を(公社)土木学会主催の「土木史研究発表会」で発表した。

■第45回土木学会土木史研究発表会での報告・エキスカージョンへの参加

第45回土木学会土木史研究発表会(2025年6月21日・22日)において、研究発表を行った。また、開催地である神奈川県横浜市の土木遺産を巡るエキスカージョンへ参加した。

<研究発表>

[タイトル] 土木遺産ツアーにおけるインタープリテーションに関する研究

[著 者] 原口 征人((一社)北海道開発技術センター)

石川 成昭(夕張市石炭博物館) ほか

<エキスカージョンへの参加>

[タイトル] みなとまち横浜の土木遺産を巡る

[内 容] 前半は港町横浜を支えた大岡川と堀割川を船で巡り土木遺産を見学、後半はまちを歩き横浜の歴史を学んだ。

■2025年度土木学会全国大会 in Kumamoto での報告

2025年度土木学会全国大会(2025年9月8日～12日)において、研究発表を行った。

<研究発表>

[タイトル] 選奨土木遺産で描く北海道開発の沿革と今後への展望

[著 者] 原口 征人((一社)北海道開発技術センター)

今 尚之(北海道教育大学教育学部札幌校) ほか

■(公社)土木学会北海道支部 土木遺産委員会への協力

北海道の土木学会選奨土木遺産2件を選定。



図1.土木学会全国大会発表内容(ポスター)



写真1.土木学会選奨土木遺産2件
(木コングリート橋・木直川橋(左)、納沙布岬灯台(右))

5) ほっかいどう学の推進に関する調査研究

③北海道の冬の遊びや公園利用やライフスタイル形成に関する調査研究

北海道の幼児の冬の遊びや公園利用の把握を通じて、地域と連携した保育・遊びの充実や今後の事業づくりに生かしていくことを目的とし、保育施設における夏・冬の公園利用の実態調査を実施した。

■冬の外遊びのための保育環境に関する調査実施

2024年に実施した札幌市の小規模保育事業を対象とした調査の結果に加え、園庭を持つ保育施設を対象に調査を実施し、冬の外遊びの意思決定を支えるマップづくりの要素を体系化した。

[対 象] 札幌市内の認定こども園・保育所・幼稚園477施設

[調査内容] 冬の園庭の環境整備、利用している公園などの環境データ、遊びの内容に関する情報を収集・整理

<研究発表>

寒地技術シンポジウム(2025年11月19日)において発表を行った。

[タイトル] 冬の外遊びを広げる～マップづくりの要素を深掘る～

[著 者] 金 貞姫((一社)北海道開発技術センター)、
増山 由香里(札幌国際大学人文学部心理学科)、
大井 元揮((一社)北海道開発技術センター)

■絵本を通じた冬の外遊びの展開

保育士を目指す大学生と冬・雪に関連する絵本DBを作成し、「読む→遊ぶ→外で遊ぶ→振り返る」を通して、絵本から広がる冬の外遊びの活動計画を作成する。

<研究発表>

寒地技術シンポジウム(2025年11月19日)において発表を行った。

[タイトル] 絵本からひろがる冬の外遊び

[著 者] 吉川 真生・松本 美音・中村 心音・三浦 依久・増山 由香里
(札幌国際大学人文学部心理学科)、
金 貞姫・大井 元揮((一社)北海道開発技術センター)

冬の外遊びを広げる ～マップづくりの要素を深掘る～

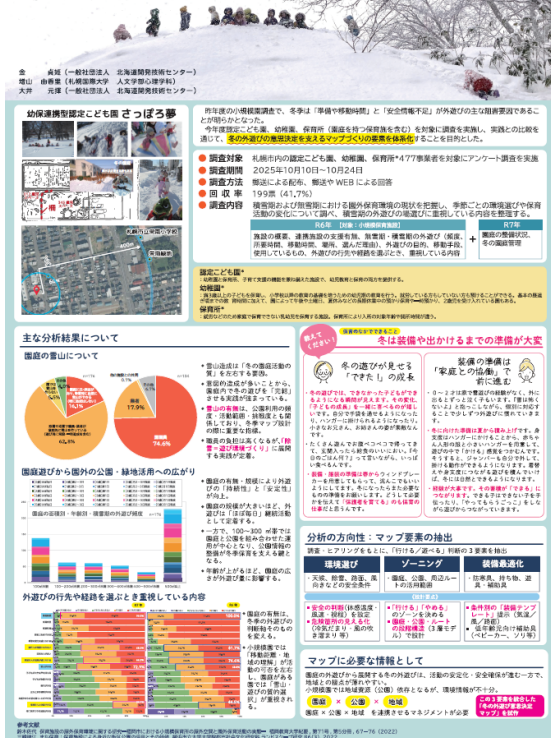


図1.寒地技術シンポジウム発表ポスター



写真1.冬の公園利用の様子
(江別市大麻西公園/おおあき認定こども園) 23

6) 野生生物との共生に関する調査研究

国道等で発生する動物との衝突事故等の被害対策検討に必要な調査研究、調査手法や対策手法の検討を行う。国内外の学会等での発表、参加により情報収集を行う。

研究 NO.	研究項目	期間	研究内容	報告 有無
①	「野生生物と交通」に関する公開資料作成	2年目	「野生生物と交通」に関する知見をとりまとめ、広く情報公開するための資料作成を行う。また、情報収集を目的としたフィールドワークを実施する。	○
②	エゾシカのロードキルに関する情報収集及び発信の高度化検討	2年目	ロードキルデータ収集の高度化や、過年度作成した可視化マップの改善検討及び効果計測を行う。また、成果について学術大会での研究発表を行う。	○
③	エコロジカル・ネットワークの基礎研究	1年目	北海道内のエコロジカル・ネットワークとロードキルの関係性についての基礎調査及び分析を行う。また、エコロジカル・ネットワークに関する現地調査を実施する。	○
④	大学等との共同研究によるロードキル対策の検討	3年目	大学や一般企業と共同研究を行い、ロードキル対策に関する検討を行う。	○
⑤	環境教育に関する調査研究	1年目	野生生物との共生に関する環境教育について事例収集を行うとともに、環境教育実施に向けた検討を行う。	○

6)野生生物との共生に関する調査研究

①「野生生物と交通」に関する公開資料作成

「野生生物と交通」に関する知見をとりまとめ、広く情報公開するための資料作成を行った。また、情報収集を目的としたフィールドワークを実施した。

■野生動物フィールドサイン勉強会

現地調査の技術をより多くの社員に習得してもらうため、ロードキル業務関係者及び新入社員を対象として、野生動物のフィールドサイン勉強会を開催した。

<概要>

〔目的〕 現地調査の技術をより多くの社員に習得してもらう

〔日時〕 2025年5月22日・23日

〔場所〕 十勝エリア(上士幌町糠平、帯広広尾自動車道 等)

〔内容〕 痕跡調査、ライトセンサス、自動撮影カメラ調査、既存対策紹介、既存対策の見学

〔結果〕 社内の技術向上につながったとともに、実際に既存対策の現場を知ることとは大変勉強になった。



図1.フィールドサイン勉強会の様子

■ロードキル防止啓発動画の作成

エゾシカのロードキルに関する知見をとりまとめ、エゾシカのロードキル防止啓発動画を作成した。

動画の内容は、エゾシカの衝突やヒヤリハットの映像を中心とし、エゾシカの特徴や行動特性、事故データのグラフ、スピードと視認性の関係、注意すべき場所等の内容を盛り込み、約3分の長さとした。

衝突やヒヤリハットの映像は、過年度の自主研究において収集したものを使用した。

この啓発動画の作成は、帯広畜産大学および北見工業大学との共同研究として実施した。



シカは背景と同化しがち
道路わきにいるのにつけづらい生き物です

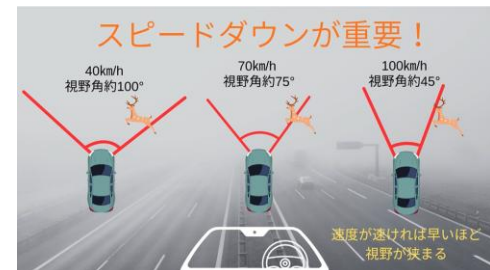


図2.ロードキル防止啓発動画(キャプチャー)

6)野生生物との共生に関する調査研究

②エゾシカのロードキルに関する情報収集及び発信の高度化検討

ロードキルデータ収集の高度化や、過年度作成した可視化マップの改善検討及び効果計測を行った。また、成果について学術大会での研究発表を行った。

■Webアプリ：ロードキル処理記録システム

開発中のロードキル処理記録システム(スマートフォンを用いて被害動物の撮影を行うことで、回収日時や位置情報(緯度経度)を自動取得し、記録データを送信するシステム)について、過年度の試行を踏まえ、改良を行った。

■Web版ロードキルマップ:北海道エゾシカロードキルマップ

注意喚起ツールの一つとして、Web上で確認可能な「北海道エゾシカロードキルマップ」を作成している。最新の2024年度のロードキルデータを追加して、データの更新を行った。マップ情報は、各開発建設部発行のシカ注意喚起リーフレットにも掲載された。[URL] <https://www.wildlife-traffic.jp/roadkill>



図1.ロードキル処理記録システム



図2.エゾシカロードキルマップ画面例

■日本哺乳類学会での自由集会企画及び発表

日本哺乳類学会2025年度大会において、自由集会を企画するとともに、自由集会内で発表を行った。約80名の参加があり、大変盛況であった。

[企画] 「ロードキル問題に沼る一多様な視点からの研究」

[企画者] 浅利 裕伸(帯広畜産大学)、辻 大和(石巻専修大学)、
立木 靖之(酪農学園大学)、
鹿野 たか嶺((一社)北海道開発技術センター)

[発表] 「つなぐ」ことで進めるロードキル対策-DXと官民共創による社会実装の試み

[発表者] 佐藤 金八((一社)北海道開発技術センター)



写真1.日本哺乳類学会の様子

■キャンプ雑誌における啓発記事作成

ドライバーへの注意喚起及びWebマップ周知、動画募集を目的として、キャンプ雑誌に掲載する啓発記事を作成した。



図3.キャンプ雑誌表紙および啓発記事作成

6)野生生物との共生に関する調査研究

③エコロジカル・ネットワークの基礎研究

北海道内のエコロジカル・ネットワークとロードキルの関係性についての基礎調査及び分析を行った。また、エコロジカル・ネットワークに関する現地調査を実施した。

■運送事業者アンケート

北海道内の運送事業者約1,200社を対象として、エゾシカとの衝突実態・対策実施等に関するアンケート調査を実施した。

回答率は40%と高く、また何らかの事故対策をしている企業が約90%と、エゾシカのロードキルに対する関心が高いことがわかった。

■第20回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)での報告

第20回日本モビリティ・マネジメント会議において、2本のポスター発表を行った。

[タイトル] 運送事業者を対象としたロードキル実態調査

[著 者] 佐藤 真人・鹿野 たか嶺((一社)北海道開発技術センター)

[タイトル] ドライバーに向けたエゾシカロードキル啓発の試み

[著 者] 鹿野 たか嶺・佐藤 真人((一社)北海道開発技術センター)、
浅利 裕伸(帯広畜産大学)

■エコロジカル・ネットワーク調査

道路横断施設(ボックスカルバート、シカ用横断歩道等)の利用実態調査を行い、「野生生物と交通」シンポジウム内で調査結果を公開した。

■「野生生物と社会」学会でのテーマセッション企画

第30回「野生生物と社会」学会大会において、テーマセッションを企画した。約60名の参加があり、大変盛況であった。

[企 画] 野生生物と交通に関する話題－希少種の事故と保全

[企画者] 浅利 裕伸(帯広畜産大学)、
鹿野 たか嶺(一社)北海道開発技術センター)、
山田芳樹(株ドーコン)

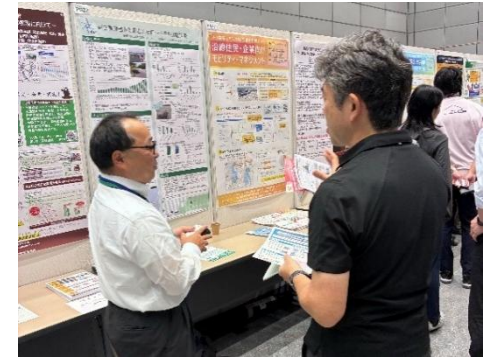


写真1. JCOMMポスター発表の様子



写真2. ボックスカルバートを利用するエゾシカ



写真3. 「野生生物と社会」学会の様子

6)野生生物との共生に関する調査研究

④大学等との共同研究によるロードキル対策の検討

大学や一般企業と共同研究を行い、ロードキル対策に関する検討を行った。

■ロードキル対策を目的としたETC2.0プローブデータの活用

- [目 的] ETC2.0プローブデータを活用し、ロードキル発生要因を解明すること
- [共同研究者] 酪農学園大学 農食環境学群環境共生学類 鈴木透准教授
- [調査期間] 2025年5月～
- [成 果] 第25回「野生生物と交通」シンポジウム(2025年11月21日)にて、ポスター発表を行った。
- [発表タイトル] 北海道におけるロードキル、道路構造、走行履歴の相互関係-ETC2.0プローブデータの活用-
鈴木 透(酪農学園大学)、
佐藤 真人、鹿野 たか嶺、((一社)北海道開発技術センター)



図1. 発表したポスター

■道路分野のネイチャーポジティブ検討

- [目 的] 道路分野のネイチャーポジティブとして、野生動物のロードキル対策を検討する
- [メンバー] (一財)国土技術研究センター、(株)建設環境研究所 等
- [調査期間] 2025年7月～
- [内 容] エゾシカのロードキルが多発している国道36号(北海道苫小牧市)及び希少種のロードキルが多発している国道58号(沖縄県国頭村等)におけるロードキル対策施設の現場視察、意見交換会
- [成 果] 第25回「野生生物と交通」シンポジウムの企画テーマセッションへつなげることができた。



写真1. 国道36号現場視察の様子
(エゾシカのロードキルについての説明)



写真2. 国道58号現場視察の様子
(カニのロードキル対策カルバート)

6)野生生物との共生に関する調査研究

⑤環境教育に関する調査研究

野生生物との共生に関する環境教育について事例収集を行うとともに、環境教育実施に向けた検討を行った。

■環境教育事例収集

- 野生生物との共生に関する環境教育に参加するとともに、事例収集を行った。
- ・TOYOTA SOCIAL FES 2025 動物や自然に触れ、環境保全について考えよう！
：外来種(フランスギク)駆除、専門家からの環境教育
 - ・ロードキル対策(沖縄県)：市町村×小学校×セブンイレブン
：地域の小学校にポスター制作を依頼し、沖縄県内のセブンイレブンで掲示

■小学校環境学習

- 札幌市内の小学校4年生を対象とした河川周辺環境に関する環境学習に参画した。
- [対 象] 東白石小学校4年生/53名、平和通小学校4年生/66名
- [日 時] 2025年7月14日 東白石小 9:20-11:30 平和通小 13:00-14:40
- [目 的] 国道12号と交差する付近の月寒川において、道路・河川敷へのゴミ調査や河川環境の調査を通じて地域環境への関心を高める。
- [体 制] 講師：水質・道路系コンサルタント18名によるプログラム構成、運営を実施。

■第30回月寒川まつり

- 主に白石区住民を対象とした環境イベント開催にあたり、スタッフとして参画した。
- [参加者] 736名(一般参加535名、屋台スタッフ95名、従事スタッフ77名、ボランティア16名、事務局13名)
- [日 時] 2025年7月26日
- [担当内容] (一社)北海道開発技術センター
…河川環境調査(月寒川探検隊)スタッフ、チラシ作成
- [体 制] 実行委員会形式
事務局：白石区役所、東白石地区／白石東地区町内会連合会、白石厚別建設協会、日本技術士会北海道本部ES研究会 等



写真1. TOYOTA SOCIAL FESの様子



写真2. ロードキル対策ポスター



写真3. 講師による水質・生物説明



写真4. 河川探検



写真5. 講師による水棲生物の説明



写真6. 親子参加による河川探検

7) 北海道の地域防災に関する調査研究

北海道における地域防災力の向上に向けて、関係機関・団体と連携しつつ、地域防災力向上方策等について検討する。また、道内外で開催される学会や研修会に参加し、教材研究及び全国防災関係者との情報交換を行う。

研究 NO.	研究項目	期間	研究内容	報告 有無
①	防災教育の推進に向けた調査研究	3年目	R5,6に収集した防災教育に関する取組事例を参考に、ほっかいどう学との連携も踏まえた防災教育のあり方について検討する。	○
②	BCP(業務継続計画)に関する情報収集及びdec版BCP案の検討	3年目	dec版BCP素案作成に向けた検討を行う。	○
③	災害時アンケート調査 (道内災害発生時のみ)		他機関実施のアンケート結果等を利用し、課題等を整理する。	○

7) 北海道の地域防災に関する調査研究

①防災教育の推進に向けた調査研究

2023年、2024年に収集した防災教育に関する取組事例を参考に、ほっかいどう学との連携も踏まえた防災教育のあり方について検討した。

■第11回 避難所・避難生活学会年次集会 への参加

災害関連死ゼロを目標に、トイレ・シャワー(Toilet)、食事(Kitchen)そして就寝環境(Bed)の TKB三要素の質の確保を提唱し、避難所環境の改善に取り組んできた避難所・避難生活学会の年次集会に参加。自治体職員、ボランティア、災害医療者、メディア関係者など、多くの災害現場経験者と知識の共有と課題に対する意見交換を行った。

[日時] 2025年12月6日～7日 [場所] 日本赤十字看護大学(東京・広尾)

[主催] 一般社団法人避難所・避難生活学会

テーマ:TKB48～社会実装への提起～

セッション1:オープニング

●トピックス2025

- イタリアの防災訓練に参加して(内閣府政策統括官)
- 横浜市のTKBの取組みについて(横浜市総務局危機管理室)

セッション2:TKB

- 酷暑期避難所演習の県内持寄り型TKBについて(青森県危機管理局)
- 台湾の避難所の運営システムの視察から得た知見と学び(弘前大学)
- イタリア型TKB避難所の実証実験について(株式会社シェルターワン)

セッション3:防災庁

- 防災庁設置準備アドバイザー会議報告書について(新潟大学・国際医療福祉大学)
- 防災庁設置に向けた基本的な方向性(内閣官房防災庁設置準備室)
- 災害時の避難所環境改善を目指す超党派議員連名の設置について(衆議院議員)
- 防災庁についてディスカッション
- 防災庁の創設と災害復興法学～災害法制10の課題と政策提言～(銀座パートナーズ法律事務所)



写真1. オープニングの様子

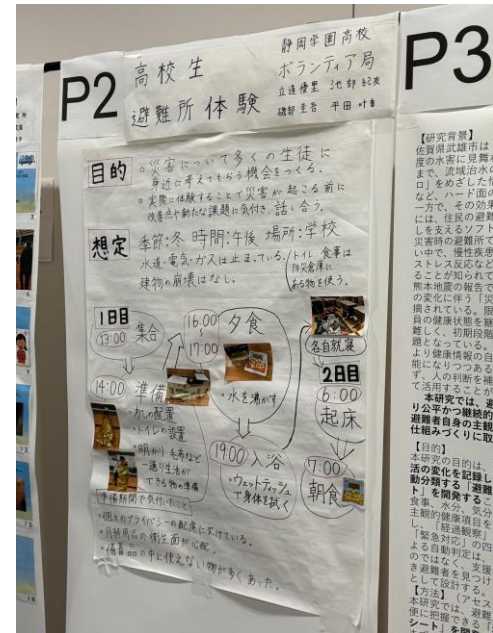


写真2. 高校生によるポスター発表

7) 北海道の地域防災に関する調査研究
②BCP (業務継続計画) に関する情報収集及びdec版BCP案の検討

dec版BCP素案作成に向けた素案構成の検討を行った。

■BCPに関連する情報収集と素案構成案の検討

内閣府防災や経済産業省、建設コンサルタンツ協会などのBCP作成に関連する資料を参考に、dec版BCPの構成素案として章タイトル案とその目的の整理を行った。また、災害発生時の職員の安否確認手段として、LINE WORKSを活用した方法の検討を行った。

章タイトル案	目的
第1章 総則	BCPの位置づけと適用範囲を明確にする
第2章 基本方針	緊急時における組織の優先原則を示す
第3章 実施体制	緊急時の指揮命令系統と役割分担を定める
第4章 発動基準と初動対応	BCP発動の判断基準と初動行動を明確にする
第5章 重要業務	緊急時にも継続・優先復旧すべき業務を特定する
第6章 事業影響度分析(BIA)	業務停止による影響と復旧条件を整理する
第7章 想定リスク	想定すべきリスクと事業への影響を整理する
第8章 継続戦略・代替手段	重要業務を継続するための具体策を定める
第9章 情報システム・情報資産の継続	システム・データ停止による業務中断を防ぐ
第10章 外部対応	対外的な説明責任と連絡対応を整理する
第11章 要員計画	必要人員の確保と代替体制を定める
第12章 教育・訓練	BCPを実効性あるものにする
第13章 点検・見直し	BCPの継続的改善を図る
附則	計画の施行時期を明確にする



図1 参考資料例

7) 北海道の地域防災に関する調査研究
③災害時アンケート調査(道内災害発生時のみ)

dec独自のアンケートは未実施だったが、他機関実施のアンケート結果等を利用し、課題等を整理した。

■各種アンケート調査情報収集

2025年度に北海道へ影響を及ぼした以下の災害に関して、各種アンケート結果や新聞記事を用いて課題の整理を行った。

<情報収集対象とした災害>

- ・カムチャツカ半島沖地震による津波避難(2025年7月)
- ・青森県東方沖を震源とする地震に伴う「北海道・三陸沖後発地震情報」の発表(2025年12月)

主な収集資料(他に新聞記事を活用)

機関名	資料名
内閣府 (防災担当)	カムチャツカ半島東方沖を震源とする地震に伴う津波における避難手段・緊急避難場所の課題に対する対策
総務省	カムチャツカ半島付近で発生した地震に伴う避難実態調査に関する調査報告書
北海道経済産業局	カムチャツカ半島付近の地震に伴う津波警報発令の影響を受けた地域を対象とした事業継続力強化計画活用に関するアンケート結果
北海道	カムチャツカ半島付近の地震に伴う対応の「振り返り」
北海道教育庁	カムチャツカ半島地震に伴う津波警報等に係る対応状況等について
室蘭市	R7.7.30 津波警報発表時の行動アンケート調査結果<概要版(速報)>
苫小牧市	カムチャツカ半島付近の地震に伴う津波警報対応に係る検証について



図1.収集資料の例

表1.北海道向けに特化した重点課題(抽出)

- ① 季節二極型リスクへの備え不足
夏: 猛暑・熱中症 / 冬: 厳寒・低体温症
→ 季節別の避難行動・備えが未定着
- ② 車避難の現実と制度ギャップ
高齢者・距離・気象条件で車避難が不可避
→ 実態に即した交通・避難ルールが未整備
- ③ 広域・観光地特性の情報伝達不足
外国人観光客 / 広域・在宅避難者で情報断絶
→ 行動に結びつく多様な伝達手段が不足
- ④ 個別避難計画・共助体制の運用弱さ
計画はあるが、実災害で機能しない例が多い
→ 訓練・役割・連携の運用フェーズ強化が必要

8) 将来の北海道開発に関する調査研究

北海道総合開発計画のフォローアップや次期総合開発計画に資するための調査研究を行う。

研究 NO.	研究項目	期間	研究内容	報告 有無
①	将来の北海道開発に関する調査研究	2年目	北海道の建設業界の方や有識者を対象としてインタビューや懇談会などを開催し、北海道の将来に向けた課題やシーズの抽出を行い、decマンスリーほかで公表する。	○
②	道路事業と住民参加に関する研究会（会長：北海道大学高野伸栄教授）	2年目	人口減少、高齢化等による、今後の道路事業と住民参加について、流雪溝や除雪パートナーシップ制度、道路協力団体などをテーマとして研究会を設置し、調査検討を行う。	○
③	「文化とインフラ」に関する勉強会（委員長：羽鳥剛史愛媛大学教授）	2年目	Highway中心の価値やベネフィットの在り方に対して、Bywayの価値を多様な視点から明らかにするための調査検討、フィールド調査を行う。	○

8) 将来の北海道開発に関する調査研究

① 将来の北海道開発に関する調査研究

北海道の建設業界の方や有識者を対象としてインタビューや懇談会を開催し、北海道の将来に向けた課題やシーズの抽出を行い、decマンスリーで公表した。

■2025年度「dec monthly」でのインタビュー

2025年

- | | | |
|-----|--|---------------------|
| 4月 | 環境省 北海道地方環境事務所 所長 | 山本 麻衣 氏 |
| 5月 | 「アイアンマンジャパンみなみ北海道」大会実行委員会
レースディレクター、コージアンマインド株式会社代表取締役 | 綱島 浩一 氏
近藤 勝俊 氏 |
| 6月 | 北海道大学 総合イノベーション創発機構データ駆動型融合研究創発拠点
(D-RED) 特任教授 | 伊藤 亜由美 氏 |
| 7月 | 株式会社クリエイティブオフィスキュー 代表取締役、プロデューサー | 岩田 圭剛 氏
遠藤 達哉 氏 |
| 8月 | 岩田地崎建設株式会社 代表取締役社長、北海道商工会議所連合会 会頭、
シーニックバイウェイ北海道推進協議会会長 | 山崎 雅生 氏
中田 亜由美 氏 |
| 9月 | 国土交通省北海道開発局長 | 佐藤 豊記 氏 |
| 10月 | 北海道エアポート株式会社 代表取締役社長 | |
| 11月 | 株式会社かんごぷらす 代表取締役社長 | |
| 12月 | 北海道高等学校遠隔授業配信センター(T-base) 次長 | |

2026年

- | | | |
|----|-------------------------------|------------------|
| 1月 | 座談会「北海道の生産空間を守る ワインと地域づくり」 | |
| 2月 | 公益社団法人雪センター理事長、株式会社大林組 常務執行役員 | 吉崎 収 氏
山本 命 氏 |
| 3月 | 松浦武四郎記念館 館長 | |

<座談会テーマ>

(テーマ)「北海道の生産空間を守る
ーワインと地域づくりー」

北海道は、全国的に人口減少が激しく、とくに農村・漁村に、その傾向が顕著です。一方で、これらの地域は農水産物等の広大な生産空間となっており、我が国の食料供給基地として大きな役割を果たしています。このような生産空間の居住人口を維持するために、ワインと地域づくりの視点から、その可能性、発展性について以下の皆様で座談会を開催しました。

<座談会メンバー>

- 北海道大学大学院農学研究院 教授、
北海道ワイン教育研究センター長
曾根 輝雄 氏
- キャスター
慶應義塾大学大学院SDM研究所 顧問、
農都共生研究会 代表 林 美香子 氏
- 有限会社インターリンクジャパン 代表
阿部 さおり 氏
- (一社)北海道開発技術センター理事長
橋本 幸

<インタビュー>

- (一社)北海道開発技術センター理事、
地域政策研究所所長 原文宏

8) 将来の北海道開発に関する調査研究

②道路事業と住民参加に関する研究会

人口減少、高齢化等による、今後の道路事業と住民参加について、流雪溝や除雪パートナーシップ制度、道路協力団体などをテーマとして研究会を設置し、調査検討を行った。

■「道路事業と住民参加に関する研究会」の開催

[日時] 2025年6月12日 [場所] (一社)北海道開発技術センター 6階中会議室

[内容] 流雪溝(機械投雪実験を中心に)／ハンディ散粒器を活用した砂まき
／道路協力団体制度を活用した取組事例と実施可能性

[メンバー] (◎印:委員長、敬称略)

◎高野 伸栄 北海道大学工学研究院土木工学部門 教授

／(一社)北海道開発技術センター 会長

橋本 幸 (一社)北海道開発技術センター 理事長

オブザーブ参加:北海道開発局道路維持課・道路計画課、
札幌市建設局土木部雪対策室、(株)構研エンジニアリング、(株)ドーコン

[事務局] (一社)北海道開発技術センター

<研究発表>

上記研究成果について、投稿及び発表を行った。

[投稿先] 『北海道の雪氷』(第44号)／雪氷研究大会(2025年9月7日～10日)
／寒地技術シンポジウム(2025年11月20日)において発表した。

[タイトル] 流雪溝の利便性向上に向けた機械投雪実験とその運用方法の検討

[著 者] 小西 信義・三原 夕佳・原文宏((一社)北海道開発技術センター)
吉田 透・滝本 慎二((株)ドーコン)、坂下 淳一・石原 敬規(一二三北路(株))
倉内 公嘉(岩田地崎建設(株)／前(一社)北海道開発技術センター)

■「持続可能な運用に向けた流雪溝の最前線(その2)」の開催

[日時] 2025年11月20日 [場所] 札幌コンベンションセンター

[内容] 機械投雪実験／沼田融雪溝と居住誘導施策／増毛流雪溝とサイクル
ルートと市街地再整備／予防保全型インフラメンテナンスの導入可能性



写真1. 研究会の様子



写真2. 雪氷研究大会の様子



写真3. 流雪溝セッションの様子

8) 将来の北海道開発に関する調査研究

③「文化とインフラ」に関する勉強会

Highway中心の価値やベネフィットの在り方に対して、Bywayの価値を多様な視点から明らかにするため、調査・検討やフィールド調査の検討を行った。

(一社)北海道開発技術センターを事務局とし、有識者を中心とした勉強会として開催しているが、関係部局(北海道開発局ほか)にも都度参加いただき実施している。

「文化とインフラ」勉強会を開催するとともに、関連学会にて研究成果を発表した。

<研究発表>

上記研究成果について、日本文化人類学会第59回研究大会(2025年6月7日)において発表を行った。

[タイトル] 高齢化する人・街・インフラ(その2) 流雪溝の活性化に向けた実践と『新しい協働』の生成

[著 者] 小西 信義((一社)北海道開発技術センター)



写真1.日本文化人類学会第59回研究大会

<研究会の開催>

[日 時] 2025年11月21日

[場 所] オンラインで実施

[内 容] ・これまでの勉強会の成果の確認及び道路の多様な価値を掘り起こす
研究理論や手法の検討
・日高地方を対象としたフィールド調査の検討



図1.「高齢化する人・街・インフラ(その2) 流雪溝の活性化に向けた実践と『新しい協働』の生成」

9) 吹雪対策施設（吹き払い柵）の設置環境による吹き払い機能の解明と防雪能力の定量評価

吹き払い柵について、現地の実態調査を踏まえて、風洞実験およびシミュレーションでの再現結果を分析した。

全道で最も多く設置されている吹き払い柵の吹き払い能力については、設置環境による影響を受けやすいことが知られている。様々な設置環境下における吹き払い能力を定量的に比較することを目的として、現地調査と数値シミュレーション、風洞実験を連携し実施した。

■風洞実験：吹き払い柵前後での風況および吹きだまり状況把握

防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 新庄雪氷環境実験所の風洞において、吹き払い柵による風況と吹きだまり状況を把握するための風洞実験を行った。（2025年6月）

■研究結果の現状報告

雪氷研究大会において、昨年度冬期に記録した実スケールの吹き払い柵の下部及び周辺吹きだまり状況を整理し、どのような条件下で下部間隙の前後の積雪量が増加するかを分析した。また、JSPS科研費JP24K07721の研究分担者が、風洞実験の結果（主著者：荒川 逸人）と、数値シミュレーションの結果（主著者：Xie Yu Chen）について、同大会で発表を行った。

<研究発表>

[タイトル] 吹き払い柵の設置環境による防雪能力の定量評価(2)

ーその1: 実物の吹き払い柵周辺の冬期間を通じた堆雪状況の変化ー

[著 者] 永田 泰浩・金田 安弘((一社)北海道開発技術センター)、大風 翼・Xie Yu Chen(東京科学大学)、荒川 逸人・根本 征樹(防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター)、櫻井 俊光(土木研究所 寒地土木研究所)、菅原 邦泰(北海道大学大学院)

※本研究はJSPS科研費 JP24K07721の助成を受けて、実施しています。



写真1. 風洞実験の結果例

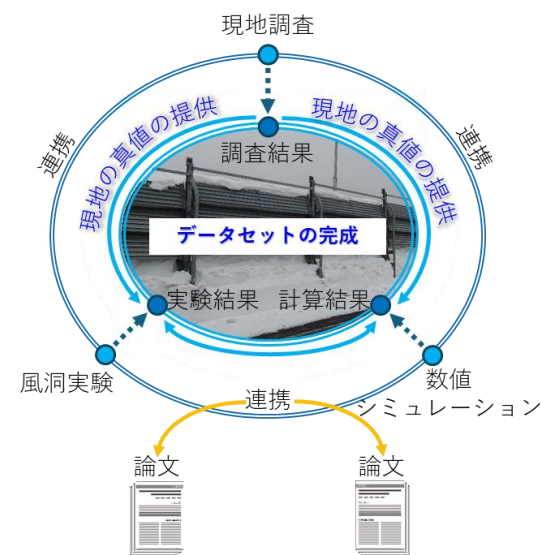


図1. 本研究のアプローチのイメージ

B.情報収集・連携事業

	No.	事業項目	報告有無
1	401	寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理	○
2	402	技術資料等のデータベース化	○
3	403	「寒地開発技術委員会」の開催と運営	○
4	404	インターンシップ制度	○
5	405	沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業	○

1) 寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理

国内外の会議やシンポジウム及び各種研究機関等との交流を通じて、寒地技術や交通政策・地域政策に関する技術情報を収集、整理した。

2025年度所属している機関や団体は、以下のとおりである。

※☆印:decが事務局の機関・団体

所属機関及び団体の名称	
(公社)北海道国際交流・協力総合センターHIECC(ハイエック)	北海道都市地域学会
(公社)雪センター	(一社)交通工学研究会
(一社)エゾシカ協会	(公社)日本都市計画学会
北海道ITS推進フォーラム	(公社)地盤工学会
世界道路協会(PIARC)	さっぽろイノベーションラボ
(公社)土木学会	道北の地域振興を考える研究会(北海道大学清水池講師他との共同研究)
日本雪工学会	【日本技術士会北海道本部】北海道インフラ技術政策研究委員会及び防災委員会
北海道土木技術会 道路研究委員会	第14回みんなで考える公共交通アイデアコンテスト
北海道土木技術会 建設マネジメント研究会	北海道シンガポール友好協会
(一社)日本モビリティ・マネジメント会議	(一社)シーニックバイウェイ支援センター
☆(一社)日本福祉のまちづくり学会北海道支部	北海道科学大学(令和6年度 連携協定締結)
☆ウィンターライフ推進協議会	土木学会ゲーミフィケーション小委員会
(公社)日本雪氷学会	
NPO法人日本風景街道コミュニティ	
(一社)交通環境まちづくりセンター	
NPO法人 人まちモビデザイン	
☆北海道バイオディーゼル研究会	
道路生態研究会	
ATTA(アドベンチャー・トラベル・トレッド・アソシエーション)	
☆NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム	
☆日中冬期交通ワークショップ常任委員会	
☆寒地開発に関する国際委員会(IACORD)	
☆アイヌ文化を読む会・アイヌ語地名勉強会	
(公社)日本道路協会	
RCE北海道道央圏協議会 (RCE:Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development)	

2) 技術資料等のデータベース化

業務関連資料のデータベース化、成果品等のデジタル化を図り、管理システムを構築している。

寒地技術や道路事業に関する資料を収集し、随時、(一社)北海道開発技術センターサーバー内でデータベース化を行い、サイボウズ上で社内公開している。

■業務成果品のデータベース化(dec業務管理)

- ・業務マスター:2012～2024
- ・成果品:1984～2021
- ・TECRIS:2009～2023
- ・業務評価点:2006～2023

■過去成果物のデータベース化(dec資料ポータル)

- ・ISCODE:1988～2010
- ・dec monthly:2004～2026(3月まで)
- ・野生生物と交通:2002～2024(第24回まで)
- ・寒地技術シンポジウム:1985～2021(第37回まで)
- ・dec総会資料:1981～2023
- ・日中ワークショップ:2002～2008
- ・写真素材
- ・dec30年誌

最新データ分については、適宜追加作業中である。

また、過去の写真素材のデジタル化を進めているほか、第40回・第41回寒地技術シンポジウムの論文報告集ならびに第25回「野生生物と交通」研究発表会の講演論文集については、J-STAGEでの閲覧が可能となった。



写真1.デジタル化している写真素材
(1997年度 国道38号)



図1.データベース検索画面(野生生物と交通)

3) 「寒地開発技術委員会」の開催と運営

①寒地開発技術及び道路に関する設計基準等の検討

寒地開発技術の開発動向や方向性の検討を行うとともに、道路事業に関わる設計基準等の検討を行った。

■寒地開発技術及び道路に関する設計基準等の検討

<2025年度寒地開発技術委員会>

[日時] 2025年7月16日 [場所] TKPガーデンシティ札幌駅前
カンファレンスルーム3A

[内容] 前年度研究報告／当年度研究方針について――→

[委員] (◎印:委員長、五十音順、敬称略)

蟹江 俊仁◎北海道大学名誉教授(構造)

川村 志麻 室蘭工業大学大学院工学研究科(地盤)

武市 靖 北海学園大学名誉教授(舗装)

苫米地 司 北海道科学大学理事長(雪氷)

萩原 亨 北海道大学名誉教授(道路)

＜成果＞引き続き本年度も積雪寒冷地の道路設計を検討課題とすることを決定

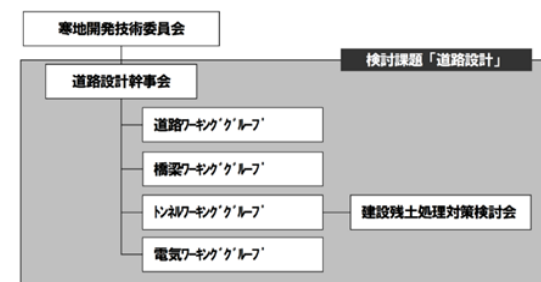


図1.寒地開発技術委員会組織図

<2025年度道路設計幹事会>

寒地開発技術委員会を踏まえて、当年度研究方針について討議した。

[日時] 2025年7月24日 [場所] (一社)北海道開発技術センター 大会議室

[出席] 阿部 正明幹事長、道路・橋梁・トンネル・電気通信施設分野の幹事各1～2名

[内容] 当年度研究方針について――→

＜成果＞体制・工程等を決定

<2025年度ワーキンググループ>――→

＜成果＞要領に反映すべき内容を提案

[状況] 道路設計幹事会を踏まえ、道路・橋梁・トンネル・電気の各ワーキンググループをそれぞれ2回(第1回目:7月～8月、第2回目:11月)開催。

[内容] 積雪寒冷地の道路設計を課題に、道路技術基準類の改訂と現場ニーズを踏まえて、北海道開発局道路設計要領に反映すべき内容を検討した。



写真1.寒地開発技術委員会



写真2.道路設計幹事会

3) 「寒地開発技術委員会」の開催と運営

②北海道企業の新技術支援に関する事業

NETIS登録予定の道内企業への登録上の相談を行った。また、北海道開発局の新技術活用ニーズに資するNETIS未登録技術の情報収集を行った。

■NETIS登録予定の道内企業への登録上の相談

<NETIS登録相談>

[日時/場所]

2025年10月1日 13:30～／(一社)北海道開発技術センター 3階

[相談者]

岡崎 竜志氏 (荒井建設(株) 取締役/土木技術部長)

大森 伸樹氏 (荒井建設(株) 第二土木部 第一工事課長)

[内容]

特許取得技術であるグラウンドアンカーなどの削孔機の位置決め工程において、マシンガイダンスにより大幅な省力化、精密化を実現する技術のNETIS登録上のポイント、留意点等の相談。

[結果]

NETIS登録申請に向け、相談者で必要な根拠の収集・整理を進めることになった。

■北海道開発局の新技術活用ニーズに資するNETIS未登録技術の情報収集

<北海道土木・建築未来技術展>

技術展示イベント「北海道土木・建築未来技術展」にて情報収集を行った。

[日時/場所]

2025年7月22日 14:00～／アクセスサッポロ大展示会場・野外展示場

[内容]

DX・GX推進に資するNETIS未登録の建設機械、測量機器、デジタル技術の情報収集

[結果]

事前に有望と思われる技術は、イベントで聞き取りの結果、NETIS登録済みであったため、引き続き他の技術イベントや業界紙等からシーズ技術の情報収集を行う。

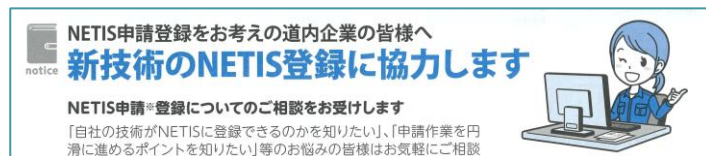


図1.decマンスリーでの告知



図2.相談技術の概要

図3.技術展示例
(重機の後方警戒AI)

4) インターンシップ制度

2025年9月8日～14日の7日間、インターンシップを下記のプログラムで実施し、筑波大学3年生2名を受け入れた。

■インターンシップの実施

[日時] 2025年9月8日～14日（計7日間）
[場所] （一社）北海道開発技術センター社内 及び 札幌市内
[対象] 筑波大学 3年生 2名

<プログラム>

	9月8日 （月）	9月9日 （火）	9月10日 （水）	9月11日 （木）	9月12日 （金）	9月13日 （土）	9月14日 （日）
9:00-9:30	社内手続き	地域公共交 通計画関連	SIP/MCDC 説明	MCDC準備			MCDC開催
9:30-10:00							
10:00-10:30	交通政策部mtg						
10:30-11:00	ロードキル 業務・ 自主研究						
11:00-11:30							
11:30-12:00							
12:00-12:30	休憩	休憩	休憩	JCOMM	JCOMM		
12:30-13:00	休憩	休憩	休憩				
13:00-13:30		MM/自動運 転/MaaS	MCDCの 実施準備			MCDC開催	
13:30-14:00	SBW説明						
14:00-14:30							
14:30-15:00							
15:00-15:30	SBW 月例会議						
15:30-16:00							
16:00-16:30							
16:30-17:00							



写真1.インターンシップの様子
（ JCOMM:聴講・運営スタッフとして参加）

5) 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業

シーニックバイウェイ北海道の参加団体を対象に、活動団体が実施する沿道の環境を守り、活用する事業に関する共同研究事業を継続する。特に、参加団体の連携事業に重点をおいて研究を実施するほか、活動団体の研修派遣事業も同時に実施する。また、webやドライブ情報紙を活用した地域情報の提供も継続して行う。

研究 No.	事業項目	報告 有無
①	シーニックバイウェイ北海道スタートアップ支援事業	○
②	日本風景街道等に関する現地調査事業	○
③	webを活用した情報提供	○
④	情報誌 Scenic Byway	○
⑤	シーニックデッキ及びシーニックカフェの利活用の推進	○
⑥	シーニックバイウェイ活動補助(シーニックバイウェイルート等の地域活動調査、ルート会議の運営補助(ルートコーディネーター))	○

5) 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業

①シーニックバイウェイ北海道スタートアップ支援事業

事業名を変更し、新たに2名の審査員を加え、シーニックバイウェイ北海道の参加団体を対象とした、「シーニックバイウェイ北海道スタートアップ支援事業」の審査を実施した。2025年度事業として8件を採択・実施。さらに、2024年に実施した事業の報告会をオンラインで開催した。

■シーニックバイウェイ北海道スタートアップ支援事業の発表会・審査会の開催

2025年度の支援事業審査及び2024年度の成果発表会をオンラインで開催した。

<開催概要>

[日時] 2025年8月7日

[場所] Zoomによるオンライン



写真1. 審査会の様子

<2024年度の成果発表会>

事業名	ルート名	審査結果
「ふたりぼっちパスポート」事業と連携した観光DX推進調査事業	トカプチ雄大空間	優秀賞
ルート連携による「知床半島一周サイクリングツアー」の具体化に向けた検討	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニック賞
次世代EVスローモビリティによる自然と絶景のシーニック・散策実証実験	宗谷シーニックバイウェイ	
アドベンチャートラベル×エコ・モビリティひがし北海道の新しい旅のカたちづくり	知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ	理事長賞
札幌シーニックバイウェイ魅力発掘及び情報発信プロジェクト-動画配信と紙マップの連携による魅力発信事業-	札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート	
天塩川シーニックのメインリバー『天塩川』を軸とした地域資源・活動PRと歴史文化の伝承～“天塩川×武四郎”を組合せたツアープログラム造成に向けた取り組み	天塩川シーニックバイウェイ	
ヒストリックバイウェイを活用したドライブ誘導と連携創出	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	理事長賞

<2025年度に採択された調査研究事業>

事業名	ルート名
道東道延伸を契機とした十勝・釧路エリア広域連携周遊促進事業	トカプチ雄大空間／釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ
ルート連携による「知床半島一周サイクリング」プロジェクト	東オホーツクシーニックバイウェイ・知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ
星空を活用した新たな地域観光資源の創出・発信事業	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ
マイクロモビリティでRishiri-Bywayの新たな感動創出事業～利尻島サイクリングロードの新たな活用～	宗谷シーニックバイウェイ
エコ・モビリティによるひがし北海道の新しい旅のカたちづくり	知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ
エゾカンゾウ・プロジェクト	萌える天北オロロンルート
どうなんサイクルツーリズム受入環境推進事業	どうなん・追分シーニックバイウェイルート
天塩川×松浦武四郎：地域の歴史文化資源を活かした“ヒストリック・バイウェイ”の創出	天塩川シーニックバイウェイ

5) 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業

②日本風景街道等に関する現地調査事業

2025年8月7日に開催された「シーニックバイウェイ北海道スタートアップ支援事業」審査会において、2024年度の事業として優良な成果をあげた2ルートに対し、日本風景街道等に関する現地調査事業として日本風景街道大学への派遣を行った。

<対象ルート・参加人数>

優秀賞：十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間 2名

シーニック賞：東オホーツクシーニックバイウェイ 2名

■日本風景街道大学 in くにさきキャンパスへの参加

<開催概要>

[実施日] 2025年11月1日・2日

[開催地] 大分県国東市(ホテルベイグランド国東)

[内 容] Day1 / 記念講演・基調講演・パネルディスカッション

Day2 / エクスカーション

11月1日では、日本風景街道大学として、シーニックバイウェイ北海道推進協議会アドバイザーの 石田 東生 氏(筑波大学名誉教授)による「風景街道と国土形成計画」と題した記念講演が行われた。続いて、国土交通省道路局道路交通管理課の 安部 勝也 課長 により、「観光の観点から地域振興を考える」をテーマとした基調講演が行われた。その後、パネルディスカッション「風景街道＋観光＝地域振興！！」が開催された。最後に、海べの道「先人たちの道」第一号認定式が行われ、あわせて懇親会も開催された。

11月2日には、日本風景街道『おおいた海べの道』のルート視察として、五辻不動や岩戸寺をバスで巡るエクスカーションが行われた。



図1.
日本風景街道大学
開催案内



写真1. シンポジウムの様子



写真2. エクスカーションの様子

5) 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業

③webを活用した情報提供

シーニックバイウェイ北海道の参加団体の活動について、シーニックバイウェイ北海道のホームページやSNSを活用して、地域情報、イベント情報等の提供を行った。

■web等を活用した情報提供

<目的>

シーニックバイウェイ北海道 指定15ルート、候補2ルートの地域情報やイベント、観光情報等を収集し、ホームページやFacebook等のSNSを活用し広く発信することで、認知度向上や活動の紹介、地域への来訪機会の創出を図った。

<情報提供>

- ・ トピックス(お知らせ): 月3~5件の地域情報を公開(発信)
- ・ イベントカレンダー(HP内): 14ルートの月毎のイベントカレンダーを公開
- ・ Facebook: 情報発信を実施
- ・ Instagram: 情報発信を実施(シーニックバイウェイ、秀逸な道の2アカウント)

<実施状況>

- ・ 2022年5月に内容をリニューアルし、より見やすく、情報が探しやすいよう構成を刷新し、各ルートの最新情報が見られるようにトップページにルートのSNSを表示している。
- ・ 地域のFacebook等の情報を積極的にシェアして情報発信を実施。
- ・ 2025年10月から、シーニックバイウェイ秀逸な道の新規3区間のPR動画及び新規3区間の日帰りおよび3泊4日のドライブモデルコースを掲載した。
- ・ 2025年11月より、SNS活性化として、Instagramでの情報発信を試行的に強化した。



図1.Webサイト/ドライブコース紹介

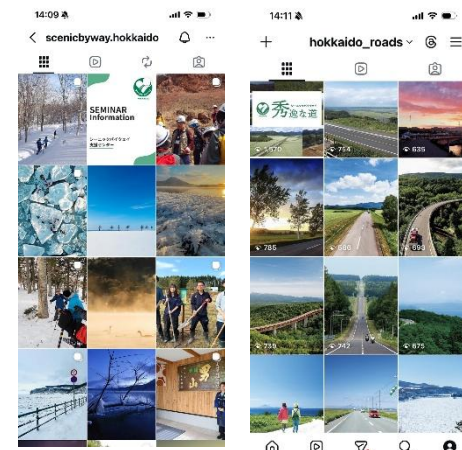


図2.Instagramでの情報発信

(左:シーニックバイウェイ北海道、右:秀逸な道)

5) 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業

④情報誌 Scenic Byway

シーニックバイウェイ北海道の参加団体の活動について、ドライブ情報紙「Scenic Byway」を活用して、地域情報の提供を継続して行った。

シーニックバイウェイ北海道各ルートへの来訪を促すドライブ観光総合情報紙として、「おすすめのドライブルート」「滞在・体験メニュー」「旬の食事」「旅の思い出になるお土産」等の地域情報を発信した。

■情報誌Scenic Byway製作・発行

<2025年度事業概要>

[回数] 年2回発行(夏秋号・冬春号)

[部数] 各9万部／仕様:A5サイズ×48P

[発行] 北海道ドライブ観光推進コンソーシアム
(一社)北海道開発技術センター

[編集・制作] シーニックバイウェイ編集・制作実行委員会

[協力] シーニックバイウェイ北海道 指定15ルート・候補2ルートのみなさん
(一社)シーニックバイウェイ支援センター

<アンケート結果より(概要)>

- ・vol35は、412名が回答。20代～70代の女性の回答が多い。
- ・情報誌をきっかけに、シーニックバイウェイを知ったとの回答が7割以上となっており、シーニックバイウェイの認知度向上に貢献している。
- ・約9割の方が掲載箇所へ行ってみたいと回答しているほか、旅行雑誌とは異なる地元ならではの情報が掲載されており参考になる、すでにいろいろな場所に旅行しているのでローカルでマニアックな記事をたくさん載せていただけるとまた出かけるモチベーションになる等、地域情報の提供が、来訪動機を促進していることが伺える。
- ・ドライブ観光の際の旅行プランに役立っていることが伺えることから、今後も地域と連携し、魅力的な情報誌を製作・発行する。



図1. vol.35夏秋号 テーマ:実り

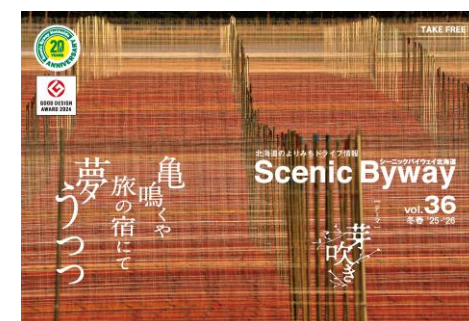


図2. Vol.36冬春号 テーマ:芽吹き

5) 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業

⑤シーニックデッキ及びシーニックカフェの利活用の推進

SBWスタンプラリーWEBアプリを運用し、シーニックカフェ・デッキや秀逸な道を巡るデジタルスタンプラリーをはじめ、各ルートが主催する多様なスタンプラリーを開催している。

■スタンプラリーサイト「よりみちHOKKAIDO」

シーニックバイウェイ北海道の活性化及び、北海道のドライブ観光の活性化に向けて開発したデジタルスタンプラリーアプリ「よりみちHOKKAIDO」を活用し、シーニックカフェ・デッキと秀逸な道を巡るデジタルスタンプラリーを開催している。

また、シーニックバイウェイの各ルート主催のスタンプラリーにおいても「よりみちHOKKAIDO」が活用されている。

<シーニックデッキ&カフェスタンプラリー2025>

- [スタンプラリー期間] 2025年6月16日～2026年3月15日
 [スタンプ箇所] 全道のシーニックカフェ・シーニックデッキ・秀逸な道
 全118箇所
 [応募期間] 2025年6月16日～2026年3月15日
 [参加状況] 参加人数:511人

<その他スタンプラリー>

- ・ソラ★スタ2025 そらち「道の駅」×「シーニックバイウェイ」スタンプラリー
 主催:そらち「道の駅」ネットワーク会議、空知シーニックバイウェイ(共催)
- ・感動・寄り道 スマホdeスタンプラリー2025
 主催:札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート
- ・ぐるっと釧路十勝! デジタルスタンプラリー
 主催:トカプチ雄大空間
- ・松浦武四郎蝦夷地踏査の足跡スタンプラリー
 主催:天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議



図1.デジタルスタンプラリーの画面



図2.シーニックデッキ&カフェスタンプラリーのInstagram広告

5) 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業

⑥シーニックバイウェイ活動補助(シーニックバイウェイルート等の地域活動調査、ルート会議の運営補助(ルートコーディネーター))

シーニックバイウェイルート(指定15・候補2)の地域活動調査及び各ルート会議の運営補助等を実施。

■シーニックバイウェイ活動補助(シーニックバイウェイルート等の地域活動調査、ルート会議の運営補助(ルートコーディネーター))

<会議・活動等の支援>

シーニックバイウェイ北海道の各ルートの地域住民や団体が行う景観、観光、地域づくり活動等への参加、会議及び活動の支援を行った(以下、2025年度実施した事業の抜粋)。

<参加・支援状況>

2025年度

- 4月11日 人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト総会参加
- 4月14日 萌える天北オロロンルート役員会
- 4月25日 函館・大沼・噴火湾ルート総会参加
- 5月12日 トカプチ雄大空間運営代表者会議参加
- 5月28日 支笏洞爺ニセコルート 洞爺湖エリア代表者会議参加
- 6月 4日 空知シーニックバイウェイ地域づくり連携会議参加
- 6月 6日 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ総会参加
- 6月10日 知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイルート代表者会議参加
- 6月11日 層雲峡オホーツクシーニックバイウェイ定時理事会参加
- 6月12日 南十勝夢街道ルート代表者会議参加
- 6月20日 十勝平野・山麓ルート代表者会議参加
- 6月25日 どうなん追分シーニックバイウェイ総会参加
- 7月30日 天塩川シーニックバイウェイルート代表者会議参加



写真1. 函館・大沼・噴火湾ルート総会の様子
(4月25日)



写真2. どうなん追分シーニックバイウェイ総会の様子
(6月25日)

2. 広報・国際交流事業

A. 広報・出版刊行等

	No.	事業項目	報告 有無
1	451	ニューズレターの発行	○
2	452	ホームページの更新	○
3	454	出版刊行	○

1) ニュースレターの発行

(一社)北海道開発技術センターの事業紹介・PR、会員等への情報提供として、年12回「dec monthly」の発行を行っている。

- 4月号
- ・〈巻頭インタビュー〉環境省 北海道地方環境事務所 所長 山本 麻衣氏
 - ・第24回「野生生物と交通」研究発表会
 - ・IENE2024 in Prague参加報告

写真1:4月号



- 5月号
- ・〈巻頭インタビュー〉「アイアンマンジャパンみなみ北海道」大会実行委員会 レースディレクター、コージアンマインド株式会社 代表取締役 綱島 浩一 氏
 - ・サイクルルート北海道「どうなん海道サイクルルート」
 - ・令和6年度「北海道『散走』ミーティング」開催報告

写真2:5月号



- 6月号
- ・〈巻頭インタビュー〉北海道大学 総合イノベーション創発機構データ駆動型融合研究創発拠点 (D-RED) 特任教授 近藤 勝俊氏
 - ・データの業務活用とEBPM研修～自治体職員や建設コンサル、建設業向け現場データ活用入門～開催報告
 - ・令和7年度 dec 定時総会

写真3:6月号



- 7月号
- ・〈巻頭インタビュー〉株式会社クリエイティブオフィスキュー 代表取締役、プロデューサー 伊藤 亜由美 氏
 - ・シーニックバイウェイ北海道とワインの接点
 - ・〈寄稿〉北海道大学 北海道ワイン教育研究センター主催「北海道アカデミックワイン学」の取り組みについて

写真4:7月号



- 8月号
- ・〈巻頭インタビュー〉岩田地崎建設株式会社 代表取締役社長、北海道商工会議所連合会 会頭、シーニックバイウェイ北海道推進協議会 会長 岩田 圭剛 氏
 - ・シーニックバイウェイ北海道 20周年記念フォーラム ～ Create a “Scenic Byway Culture” ～

写真5:8月号



- 9月号
- ・〈巻頭インタビュー〉国土交通省北海道開発局長 遠藤 達哉 氏
 - ・先進モビリティの未来～十勝発の新たな挑戦～ 開催報告
 - ・〈寄稿〉道路法等改正の概要について～道路網の整備に関する基本理念の創設など～

写真6:9月号



1) ニュースレターの発行

(一社)北海道開発技術センターの事業紹介・PR、会員等への情報提供として、年12回「dec monthly」の発行を行っている。

10月号

- ・〈巻頭インタビュー〉北海道エアポート株式会社 代表取締役社長 山崎 雅生 氏
- ・「北海道の物流問題と道北の北部への影響」―道北の地域振興を考える講演会から基調講演報告―
- ・未来を運ぶ北海道のチカラ クロネコフェア in ES CON FIELD HOKKAIDO 参加報告

写真7:10月号



11月号

- ・〈巻頭インタビュー〉株式会社かんごぱらす 代表取締役社長 中田 亜由美 氏
- ・第20回 日本モビリティ・マネジメント会議

写真8:11月号



12月号

- ・〈巻頭インタビュー〉北海道高等学校遠隔授業配信センター(T-base) 次長 佐藤 豊記 氏
- ・開催報告 第3回 全道みち学習交流会
- ・第17回 土木と学校教育フォーラム 参加報告

写真9:12月号



1月号

- ・〈新年のごあいさつ〉一般社団法人 北海道開発技術センター 会長 高野 伸栄
- ・〈新春特別企画 座談会〉北海道の生産空間を守る ―ワインと地域づくり―

写真10:1月号



2月号

- ・〈巻頭インタビュー〉公益社団法人雪センター理事長、株式会社大林組 常務執行役員 吉崎 収 氏
- ・第41回寒地技術シンポジウム

写真11:2月号



3月号

- ・〈巻頭インタビュー〉松浦武四郎記念館 館長 山本 命 氏
- ・天塩川シーニックバイウェイによる 松浦武四郎についての取り組み
- ・第20回 日中冬期道路交通ワークショップ 開催報告

写真12:3月号



2) ホームページの更新

(一社)北海道開発技術センターの事業紹介・PR、会員等への情報提供として、ウェブサイトの運営を行った。

■WEBサイトの運営

(一社)北海道開発技術センターの事業内容の紹介やシンポジウム関連の紹介、「dec monthly」の公開など、ウェブサイト上で発信し、サイトの管理・運営を行った。

<主な更新内容>

[新着記事]

- ・HBCラジオ「明日をキツク」(第25回～第36回放送回)
- ・先進モビリティの未来 ～十勝発の新たな挑戦～
- ・D-RED地域イノベーションシンポジウム
- ・令和7年度！あなたの冬道での転倒体験、教えてください！
- ・冬をもっと楽しく、もっと快適に！ウインターライフキャンペーン2026 開催！ 他

[dec monthly]

- ・vol.475【2025.4.1発行】～vol.486【2026.3.1発行】

[dec関連セミナー]

- ・先進モビリティの未来 ～十勝発の新たな挑戦～

[プレスリリース]

- ・2025年11月12日 第41回寒地技術シンポジウムの開催
- ・2025年11月12日 第25回「野生生物と交通」シンポジウムの開催
- ・2026年2月2日 ウインターライフキャンペーン2026 他

[その他]

- ・dec概要(理事長挨拶)更新
- ・2026年度採用情報の更新
- ・お仕事&職員紹介
- ・研究活動に係る規定
- ・速度改善を目的としたオープニングアニメーションの削除



図1.新着記事



図3.dec関連セミナー



図2.明日をキツク



図4.お仕事&職員紹介

3) 出版刊行

第41回寒地技術シンポジウムおよび第25回「野生生物と交通」シンポジウムの概要集等の編集・発行等を行った。

■寒地技術論文・報告概要集2025の編集・発行

[内 容] 論文:40編

ポスター:43編

技術展示:5団体

[発行物] 寒地技術論文・報告概要集2025(A4判冊子)

本論文は、第40回(2024年)からJ-STAGEにて公開しており、第41回(2025年)についても既に公開済みである。

[発行日] 2025年11月

[編集・発行] (一社)北海道開発技術センター

[印刷] (株)プリプレスセンター



図1.寒地技術論文・報告概要集

■第25回「野生生物と交通」シンポジウム 講演論文集の編集・発行

[内 容] 論文:6編

[発行物] WEB(J-STAGE)で公開

[発行日] 2025年11月

[編集・発行] (一社)北海道開発技術センター



図2.「野生生物と交通」シンポジウム
J-STAGE で公開

3) 出版刊行

平成の北海道道路史編纂委員会を2回開催した。

■「平成の北海道道路史」編纂委員会の開催

①第2回平成の北海道道路史編纂委員会

[日 時] 2025年11月5日

[場 所] (一社)北海道開発技術センター 4F大会議室

[議 事]

- ・編集委員の交代について
- ・各担当と目次構成についての確認
- ・執筆要領等について
- ・原稿イメージ
- ・今後のスケジュールについて

②第3回平成の北海道道路史編纂委員会

[日 時] 2026年1月28日

[場 所] (一社)北海道開発技術センター 4F大会議室

[議 事]

- ・各担当と目次構成についての確認
- ・各担当から進捗状況や今後の進めた方についての報告と意見交換
- ・AIなどを活用した資料の整理方法について
- ・今後のスケジュールについて



写真1.会議の様子

平成の北海道道路史編纂委員会 名簿

(敬称略)

【編集委員】

・委員長	高野 伸栄	北海道大学 教授	理事長
・委員	橋本 幸	北海道開発技術センター	常務理事
・委員	河上 聖典	北海道開発技術センター	常任顧問
・委員	坂場 武彦	北海道開発技術センター	理事
・委員	原 文宏	北海道開発技術センター	企画第一部長
・委員	古谷 浩幸	北海道開発技術センター	企画第二部長
・委員	谷津 昌則	北海道開発技術センター	企画部 首席研究員
・委員	原口 征人	北海道開発技術センター	調査研究部 首席研究員
・委員	福原 潤二	北海道開発局 道路建設課	課長補佐
・委員	山口 諒司	北海道開発局 道路計画課	課長補佐
・委員	九條 英司	北海道開発局 道路計画課	課長補佐
・委員	横山 朋紀	北海道開発局 道路維持課	課長補佐
・委員	坂本 駿	北海道開発局 技術管理課	課長補佐
・委員	西 弘明	十木研究所 専任土木研究所	研究調査監
・委員	谷村 昌史	北海道道路管理技術センター	理事長
・委員	河上 誠	北海道道路管理技術センター	理事
・委員	梶野 浩	北海道みちの歴史研究会	(株) 構研エンジニアリング 取締役執行役員
・委員	安達 幸弥	(株) 構研エンジニアリング	執行役員
・委員	伊藤 雄二	(株) エーティック	専務執行役員
・委員	岡田 正之	(株) ドーコン	取締役 常務執行役員 交通事業本部長
・委員	澤 充隆	(株) マーコン	交通事業本部 次長
・委員	木本 光則	(株) きたリンク	
・委員	矢部 有夫		
・事務局	原 文宏	北海道開発技術センター	理事
・事務局	古谷 浩幸	北海道開発技術センター	企画第一部長
・事務局	谷津 昌則	北海道開発技術センター	企画第二部長
・事務局	原口 征人	北海道開発技術センター	企画部 首席研究員
・事務局	紺野 裕乃	北海道開発技術センター	調査研究部 首席研究員
・事務局	向井奈由美	北海道開発技術センター	調査研究部 事務主任
・事務局	矢部 有夫	(株) きたリンク	

B. シンポジウム・セミナー

	No.	シンポジウム等	報告 有無
1	461	寒地技術シンポジウム	○
2	462	「野生生物と交通」研究発表会	○
3	463	地域政策研究セミナー等	
	①	自動運転シンポジウム 「先進モビリティの未来 ～十勝発の新たな挑戦～」	○
	②	第20回日本モビリティ・マネジメント会議	○
	③	地域イノベーションシンポジウム「社会を変えるデジタル技術 ～北海道から広がる未来への可能性～」	○
4	465	SBW20周年記念事業 (シーニックバイウェイ北海道20周年記念フォーラム)	○

1) 寒地技術シンポジウム

積雪寒冷地に関わる異分野交流を目的として、「第41回寒地技術シンポジウム」を開催した。

■第41回寒地技術シンポジウムの開催

以下の要領でシンポジウムを開催した。

<開催概要>

- [日 時] 2025年11月19日・20日
 [会 場] 札幌コンベンションセンター
 [主 催] (一社)北海道開発技術センター
 [後 援] 国土交通省北海道開発局/北海道/北海道教育委員会/札幌市/札幌市教育委員会/
 全国積雪寒冷地帯振興協議会/北海道経済連合会/(公社)北海道国際交流・協力総合センター/
 (一社)北海道商工会議所連合会/(公社)日本青年会議所北海道地区協議会/(一社)札幌青年会議所/
 (一社)北海道消費者協会/(一社)寒地港湾空港技術研究センター/(公社)雪センター/
 (一社)日本建設機械施工協会北海道支部/認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム/
 (一社)シーニックバイウェイ支援センター

[登 録 数] 報告論文(口頭発表):40編 ポスター発表:43編 技術展示:5団体

[発 行 物] プログラム、論文報告概要集

[日 程] 11/19 第1・2分科会、ポスターセッション

開会式(技術賞授賞式、話題提供、トークセッション)

●基調講演:高田知紀(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授)

●トークセッション

(ファシリテーター:藤井美智子/(一社)北海道開発技術センター)

「冬期複合災害に備えるリスク・コミュニケーション」

高田 知紀氏(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授)

中村 一樹氏((国研)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター センター長)

金子 ゆかり氏(チームくしろ防災女子 代表)

吉野 雅之氏(国土交通省北海道開発局 事業振興部 防災課長)

11/20 第3～8分科会、特別セッション(2テーマ)

11/19・20 技術展示



図1.J-STAGE
公開用サムネイル



図2.寒地技術論文
・報告集



写真1.基調講演の様子



写真2.トークセッションの
様子



写真3.ポスター発表

2) 「野生生物と交通」研究発表会

第25回「野生生物と交通」シンポジウムを開催するとともに、野生生物と交通に関わる情報発信および研究発表会の周知の場としてウェブサイトを経営した。

■第25回「野生生物と交通」シンポジウムの開催

25周年記念大会として、第25回「野生生物と交通」シンポジウムを開催した。

<開催概要>

[日 時] 2025年11月21日

[場 所] 札幌コンベンションセンター 大ホール

[主 催] (一社)北海道開発技術センター

[共 催] (一社)エゾシカ協会、(公財)北海道環境財団、(一社)シーニックバイウェイ支援センター、アニマルパスウェイ研究会、ヤマネ・いきもの研究所、道路生態研究会

[協 力] エコ・ネットワーク

[参加者数] 200名

[プログラム]

・特別講演「ネイチャーポジティブの実現に向けて」

(環境省北海道地方環境事務所所長 中澤 圭一氏)

・口頭発表:第1分科会 鉄道、第2分科会 ロードキル

・ポスターセッション(21題)

・企画テーマセッション「見つける・伝える・変える:野生生物と交通の共創デザイン
～人が変われば事故は減る:注意喚起と行動デザインで挑む～」

[登壇者]浅利 裕伸(帯広畜産大学)、酒匂 一樹(国土交通省道路局)、佐藤 文俊(北海道開発局)、太田 絵里子((一財)トヨタ・モビリティ基金)、飯 潔倫(トヨタ自動車株)

[コメンテーター]中澤圭一(環境省北海道地方環境事務所所長)

[ファシリテーター]佐藤真人((一社)北海道開発技術センター)

・表彰式



写真1.基調講演の様子



写真2.ポスターセッション(左)と
ポスター賞表彰の様子(右)



写真3.企画テーマセッションの様子

3) 地域政策研究セミナー等

①自動運転シンポジウム「先進モビリティの未来 ～十勝発の新たな挑戦～」

自動運転をはじめとする先進モビリティ技術の社会実装が進む中で、地域に根ざした活用のあり方や社会受容性をテーマに議論を深めるシンポジウムを開催した。

■自動運転シンポジウム「先進モビリティの未来 ～十勝発の新たな挑戦～」の開催 ＜開催概要＞

〔日時〕 2025年6月27日

〔会場〕 ホテル日航ノースランド帯広 2階 ノースランドホール

〔主催〕 (一社)北海道開発技術センター

〔共催〕 北海道開発局帯広開発建設部

〔後援〕 北海道運輸局帯広運輸支局、北海道十勝総合振興局、帯広市、上士幌町

〔プログラム〕

12:30 開場

13:00 【開会挨拶】(一社)北海道開発技術センター 理事長 橋本 幸

13:35 【基調講演】「自動運転と社会受容性」

筑波大学大学院 システム情報系社会工学域 教授 谷口 綾子 氏

14:15 休憩

14:25 【パネルディスカッション】「地域に根ざした自動運転の未来像」

〈パネリスト〉

上士幌町長 竹中 貢 氏

株式会社ミライズグループ 代表取締役社長 小林 義幸 氏

北海道開発局帯広開発建設部 次長 高野 眞司 氏

筑波大学 教授 谷口 綾子 氏

BOLDLY株式会社 ビジネスクリエーション本部 本部長 中村 哲 氏

〈コーディネータ〉

(一社)北海道開発技術センター 地域政策研究所 交通政策部 部長 大井 元揮

15:30 閉会



写真1.開会挨拶



写真2.パネルディスカッションの様子

3) 地域政策研究セミナー等

②第20回日本モビリティ・マネジメント会議

第20回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)が札幌市で開催され、全国から132件の発表が集まり、参加者数を含め過去最大規模となった。共催団体として、本大会の現地事務局を担当した。

<開催概要>

〔日時〕 2025年9月12～13日 〔会場〕札幌コンベンションセンター

〔主催〕 (一社)日本モビリティ・マネジメント会議

〔共催〕 (公社)土木学会、(一社)北海道開発技術センター、北海道開発局、北海道運輸局、北海道、札幌市、(株)ドーコン、(株)構研エンジニアリング、日本データサービス(株)

〔プログラム〕 ※所属・肩書は当時の表記

①開催地企画セッション「他分野との共創による移動の確保やMMの取り組み」

●基調講演

「共創時代の地域交通：モビリティのマネジメントとコミュニケーション」

呉工業高等専門学校環境都市工学分野 教授 神田 佑亮 氏

●パネルディスカッション

「他分野との共創による移動の確保やモビリティ・マネジメントの取り組みの推進に向けて」

②オープニングセッション「20年のJCOMMの歩みとこれから」

●基調講演「MMの四半世紀の航跡 ～MMのこれまでとこれから～」

京都大学大学院工学研究科 教授(JCOMM代表理事) 藤井 聡 氏

●話題提供「秘話：JCOMM前夜」

筑波大学大学院システム情報系社会工学域 教授 谷口 守 氏

③パネルディスカッション

「The Past and Next 20 years ～MMのこれまでとこれから～」

④企画セッション1「公共交通の未来を考える ～ピンチをチャンスに～」

⑤令和7年度 JCOMM賞授賞式

⑥口頭発表・ポスター発表

⑦企画セッション2「ドライバー不足、交通空白」

⑧クロージングセッション

主催 (一社)日本モビリティ・マネジメント会議、共催 (土木学会) (予定) / 後援 (国土交通省) (予定) ほか

第二十回 日本モビリティ・マネジメント会議
The 20th Japanese Conference On Mobility Management

2025.9/12(Fri)-13(Sat)

札幌コンベンションセンター 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
特別会場・大ホール ほか
札幌市営地下鉄東西線「東札幌駅」徒歩8分

JCOMM 札幌大会のご案内

モビリティ・マネジメント(MM)は、社会心理学や社会学などの学術的知見を基礎とし、人々にコミュニケーションを働きかけることで交通行動の自発的な変化を促す交通施策です。

我が国におけるMM施策が、今後も効果的・広範に推進されることを目指して、行政、大学、コンサルタント、市民団体等のMM関係者が一堂に会する日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)の第二十回会議を北海道札幌市にて開催いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。



すすきの交差点の札幌市電(サッポロ)

図1.第20回日本モビリティマネジメント会議



写真1.ポスターセッションの様子

3) 地域政策研究セミナー等

③地域イノベーションシンポジウム「社会を変えるデジタル技術 ～北海道から広がる未来への可能性～」

北海道大学総合イノベーション創発機構データ駆動型融合研究創発拠点(D-RED)、国土交通省北海道開発局及び(一社)北海道開発技術センターの主催により、地域イノベーションシンポジウム「社会を変えるデジタル技術 ～北海道から広がる未来への可能性～」を開催した。

<開催概要>

[日 時] 2026年3月11日 [会 場] 北海道大学学術交流会館小講堂
 [主 催] 北大D-RED、国土交通省北海道開発局、(一社)北海道開発技術センター
 [後 援] 北海道経済産業局、北海道、札幌市 ほか
 [参加者] 会場参加者200名、オンライン参加者 250名
 [プログラム]

【開会挨拶】国土交通省北海道開発局長 遠藤 達哉 氏

【取組紹介】「北海道から社会を変える ～D-REDの取組紹介～」

北海道大学副学長/
 総合イノベーション創発機構データ駆動型融合研究創発拠点長/
 大学院情報科学研究院教授 長谷山 美紀 氏

【講演】「北海道から加速するインフラDX

～AIによる道路付属物点検の高度化～」

北海道大学大学院情報科学研究院准教授 前田 圭介 氏

【講演】「社会を変える地域デジタル人材の底上げ

～北海道大学デジタルリスキングプログラム(DREP)の開発と運用～」

北海道大学大学総合イノベーション創発機構
 データ駆動型融合研究創発拠点特任教授 近藤 勝俊 氏

【閉会挨拶】(一社)北海道開発技術センター理事長/
 北海道大学総合イノベーション創発機構データ駆動型融合研究創発拠点客員教授

橋本 幸



図1. 北海道大学D-RED
 地域イノベーションシンポジウム案内

4) SBW20周年記念事業（シーニックバイウェイ北海道20周年記念フォーラム）

シーニックバイウェイ北海道の20年間の活動を記念し、これまで歩んできた地域のソフトインフラストラクチャーとしての成果を振り返るとともに、新たな「シーニックバイウェイ・カルチャー」の発展について、次世代の担い手たちと共有する機会として、シーニックバイウェイ北海道20周年記念フォーラムを開催した。

<開催概要>

〔日時〕2025年6月16日 〔会場〕生活支援型文化施設コンカリーニョ

〔主催〕シーニックバイウェイ北海道推進協議会

〔プログラム〕※所属・肩書は当時の表記

①開会挨拶 岩田 圭剛氏（シーニックバイウェイ北海道推進協議会会長（（一社）北海道商工会議所連合会会頭））

②基調講演 坂場 武彦氏（（シーニックバイウェイ北海道推進協議会副会長（北海道開発局局長））

③コロラドシーニック&ヒストリックバイウェイズ・コミッション×シーニックバイウェイ北海道推進協議会との連携に関する基本合意書締結式

④リレートーク 第一部 [テーマ] 地域とともに築いた、ソフトのインフラストラクチャー
ファシリテーター：橋本 幸氏（（一社）北海道開発技術センター理事長）

パネリスト：古谷 和之氏（NPO法人WAOニセコ羊蹄再発見の会 代表）

高野 伸栄氏（北海道大学大学院教授、シーニックバイウェイ北海道アドバイザー会議委員）

藤井 美智子（シーニックバイウェイ北海道ルートコーディネーター／（一社）北海道開発技術センター）

和泉 晶裕氏（（一社）シーニックバイウェイ支援センター代表理事）

⑤リレートーク 第二部 [テーマ] ソフトのインフラストラクチャーが育む新たな文化
ファシリテーター：羽鳥 剛史氏（シーニックバイウェイ北海道アドバイザー会議委員／愛媛大学 教授）

パネリスト：山崎 太地氏（（有）山崎ワイナリー 代表取締役）

山岸 奈津子氏（シーニックバイウェイ北海道アドバイザー会議委員／（一社）SHRAQI PROJECTS 代表理事）

橋本 滯奈（シーニックバイウェイ北海道ルートコーディネーター／（一社）北海道開発技術センター）

宮崎 貴雄氏（国土交通省 北海道開発局 建設部 道路計画課）

⑥講演 ～記念フォーラムに寄せて～「20年の思い出と記念フォーラムの総括」

石田 東生氏（シーニックバイウェイ北海道アドバイザー会議委員長／筑波大学名誉教授）



図1.開催案内



写真1.シーニックバイウェイ北海道20周年記念フォーラム会場の様子

C. 国際交流

	No.	シンポジウム等	報告 有無
1	471	米国シーニックバイウェイ関係機関との交流	○
2	472	PIARC(世界道路協会)	○
3	473	日中冬期道路交通ワークショップ	○
4	475	ATTA(アドベンチャートラベル・トレード協会)との交流	○
5	476	ISCORD(寒地開発に関する国際シンポジウム)	○

1) 米国シーニックバイウェイ関係機関との交流

シーニックバイウェイ北海道20周年記念シンポジウムへの招聘と、北海道のルート視察及び現地での意見交換を行った。

「シーニックバイウェイ北海道20周年記念フォーラム」において、Colorado Scenic and Historic Byways Commissionとシーニックバイウェイ北海道推進協議会との連携に関する基本合意書を締結した。フォーラム終了後には、シーニックバイウェイ北海道の活動状況の視察および意見交換を実施した。さらに、姉妹バイウェイ連携会議をオンラインで行い、連携活動のガイドラインや具体的な活動内容を検討した。

■連携に関する基本合意書の締結

[日 程] 2025年6月16日

[場 所] 札幌市

[内 容] Colorado Scenic and Historic Bywaysとシーニックバイウェイ北海道が、姉妹バイウェイ(Sister Byways)として、以下の取組を促進できるように努める。

- (1) 両バイウェイの活性化に関する取組
- (2) 相互の情報提供および情報共有
- (3) 定期的な相互訪問による人的交流
- (4) その他、両バイウェイが連携して行う取組
- (5) 姉妹バイウェイの枠組みを構築するガイドラインの作成

■シーニックバイウェイ北海道の視察および意見交換

[日 程] 2025年6月18日～21日

[視察先] 支笏洞爺ニセコルート、函館・大沼・噴火湾ルート、
どうなん・追分シーニックバイウェイルート

■姉妹バイウェイ連携会議の実施

[日 程] 2025年10月23日(第1回)、2026年1月29日(第2回)

[内 容] 姉妹バイウェイの枠組みを構築するガイドラインの作成
姉妹バイウェイの枠組みで実際に行う連携活動についての検討 ほか



写真1.基本合意書の締結式の様子



写真2. 現地視察の様子

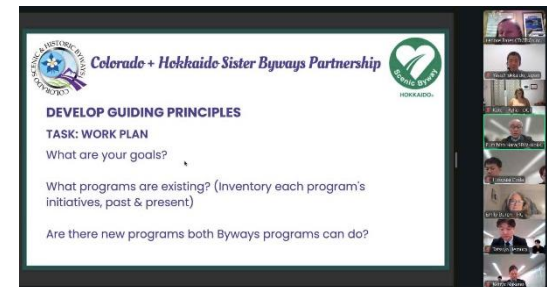


図1.姉妹バイウェイ連携会議の様子

2) PIARC(世界道路協会)

第17回冬期サービスと道路のレジリエンスに関する道路会議に参加した。

世界道路協会(PIARC)が2026年3月10日～13日にフランス・シャンベリー市で開催する「第17回冬期サービスとレジリエンスに関する世界大会(シャンベリー冬期大会)」にて成果報告を行った。

今大会における論文募集テーマは、「冬期サービス」「レジリエンス」「レジリエンス & 脱炭素化」「脱炭素化」で、これらの最新の論点や寒冷地技術の収集も行った。

<研究発表>

Topic4: Implementation of new technologies and methods in winter operation

[タイトル] 除雪オペレーターを対象としたICT技術を用いた技術習得・技術伝承の実践

[著 者] 小西 信義・三原 夕佳・原文宏((一社)北海道開発技術センター)、
中前 茂之・羽鳥 剛史(愛媛大学)、舟見 群章(株)玉川組、
倉内 公嘉(岩田地崎建設株)／前((一社)北海道開発技術センター)

Topic6: Communication and use of Data from cars and roads for Winter Service

[タイトル] CCTVカメラと車載カメラの視界情報の組み合わせによる定時的・線的な冬期視界状況推定手法

[著 者] 萩原 亨(北海道大学 名誉教授)／(一財)北海道道路管理技術センター)、
永田 泰浩・大橋 一仁・三原 夕佳((一社)北海道開発技術センター)、
高橋 翔・八木 雅大(北海道大学)



図1. 第17回シャンベリー冬季大会のHP

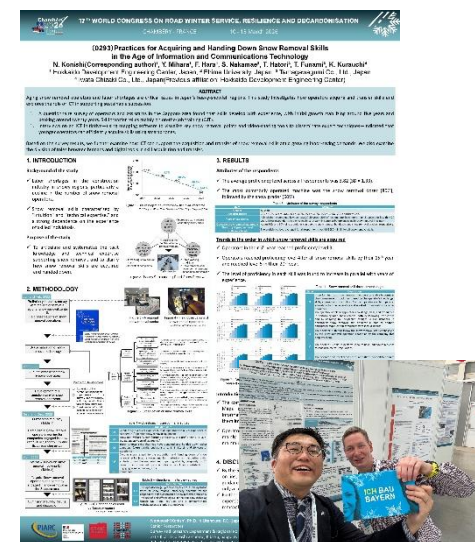


写真1. 発表ポスター(小西ら)と発表時の様子

3) 日中冬期道路交通ワークショップ

第20回日中冬期道路交通ワークショップ(於:黒竜江省)へ参加した。

2025年10月27日～31日に中国黒竜江省ハルビン市で開催された、第20回日中冬期道路交通ワークショップに参加し、論文発表や黒竜江工程学院工事文化博物館の見学を通じて、意見交換や学術交流を行い、両国の冬期道路交通に関わる技術者、研究者の相互理解を深めた。ワークショップ終了後には、現地見学会に参加し、整備中の鉄科高速道路やハルビン都市圏西南環状線松花江特大橋などの現場視察を行った。

■第20回日中冬期道路交通ワークショップの概要

[日 程] 2025年10月27日～31日

[場 所] ハルビン市(中国黒竜江省)

[内 容] 論文発表、黒竜江工程学院工事文化博物館の見学、現地視察

[参加者] 河上 聖典、原文宏、永田 泰浩、大橋 一仁、久保田 海斗

<論文発表>

[タイトル] 冬期道路維持管理における車載カメラ画像収集システムの活用

[著 者] 大橋 一仁・金田 安弘・永田 泰浩・三原 夕佳

((一社)北海道開発技術センター)

[タイトル] 札幌市における歩行者転倒事故の増加についての原因の分析

[著 者] 久保田 海斗・永田 泰浩・三原 夕佳・富田 真未

((一社)北海道開発技術センター)



写真1. ワークショップの様子



写真2. 現地見学会の状況
(橋梁プロジェクトの監視センター)

4) ATTA(アドベンチャートラベル・トレード協会)との交流

ATTAウェブサイトでの北海道情報の発信を行った。

北海道のATに関する情報発信を行ったところ、海外からメールによる問い合わせが5件あった。問い合わせは全て英語で対応し、北海道への旅行者や欧米系の旅行会社等から相談が寄せられた。そのうち、依頼者のスケジュールや希望内容を踏まえ、1件の取組を実施した。

■ニーズに合わせたオリジナルツアーの実施

台湾からの家族旅行者より、「札幌滞在中に、アクティビティを楽しみたい」との問い合わせがあり、札幌近郊で楽しめる半日サイクリングコースを提案した。地元ガイドと連携し、ツアーサポート等を実施した。

参加者は、小学生2名とその両親の計4名であり、自転車のサイズ確認や安全対策等を徹底した上で実施した。

<実施概要>

[実施日] 2025年6月25日 9時～12時

[コース] 定山溪エリア 半日コース(札幌シーニックバイウェイエリア)

[実施を終えて]

- ・走行前に、日本での交通ルールや走行時のハンドサイン等をサイクルガイドからレクチャーしたことで、子ども達も安心してサイクリングを楽しむことができた。
- ・地元のサイクルガイドと(一社)北海道開発技術センター担当者によるサポートカー体制のもと、安全に実施することができた。
- ・Webサイトの情報を活用することで、利用者ニーズに応じたオリジナルツアーを組むことができた。
- ・一方で、問合せ内容によっては、食事、宿泊、体験場所までのアクセス・移動手段など、(一社)北海道開発技術センター単独では対応が難しい事項も多く、地域の現状把握や関係団体等との日頃からの連携強化の重要性を改めて感じた。



写真1. 走行前の安全確認と
ハンドサイン・乗車方法の講習



写真2. やや大きめの自転車でも、
停車・降車を習得し乗りこなす様子

5) ISCORD（寒地開発に関する国際シンポジウム）

2026年に札幌で開催される第14回ISCORDの実行委員会に参加するなど大会運営の準備を行った。

■第14回ISCORD実行委員会への参加及び事務局としての活動

第14回ISCORDの開催に向けて実行委員会を組織し、事務局として実行委員会の運営や大会準備を行った。

<実行委員会等実施状況>

2025年 5月21日 14th ISCORD 2026 SAPPORO 第4回実行委員会の開催
 2025年 7月23日 14th ISCORD 2026 SAPPORO 第5回実行委員会の開催
 2025年10月31日 14th ISCORD 2026 SAPPORO 第6回実行委員会の開催
 2025年12月17日 14th ISCORD 2026 SAPPORO 第7回実行委員会の開催
 2026年 2月17日 14th ISCORD 2026 SAPPORO 第8回実行委員会の開催

<実行委員・事務局関係者>

実行委員長 倉内 公嘉(2025年5月まで) 橋本 幸(2025年6月から)
 実行副委員長 原文宏
 実行委員 永田 泰浩
 事務局長 大川戸 貴浩
 事務局 天見 正和、中村 志織、佐藤 金八、富田 真未、大橋 一仁、
 三原 夕佳、佐賀 彩美



図1. ISCORD2026 webロゴ



写真1.第4回実行委員会の様子（5月21日）



写真2.第8回実行委員会の様子（2月17日）70